

松本サリン事件報道におけるメディアの実態（1）
——新聞見出しからみた報道枠組みの変容について——

黒 須 俊 夫

情報行動学研究室

Some problems of media reports in the Matsumoto sarin gas attack
—— Comments on the responsibility of media ——

Toshio KUROSU

Social Information and Behavior

The sarin gas attack that killed seven people and injured 600 others in Matsumoto, took place on the sultry night of June 27, 1994.

Police and Media had scapegoated Kouno as a culprit of the Matsumoto gas attack without any substantive evidence.

About ten months after the Matsumoto gas attack, a long-run blame to Kouno shifted to the cult, Aum Shinrikyo, Japanese newspapers and TV stations began to apologize to him.

The author had collected news about the Matsumoto sarin gas from main newspapers in Japan and arranged the headlines chronologically.

In this paper the author tried to clear why the media could not abandon the assumption that Kouno had made the sarin gas and how they apologized to Kouno.

1 問題と目的

松本サリン事件から早くも5年余が経過した。河野さんを「犯人」に仕立て上げた警察やマスコミはほぼ10カ月後からその「非」を謝罪し始めた。ただ、警察が公式に謝罪したという報道は未だなされてはいない。

この事件は、いわゆる「えん罪」事件であるが、「犯罪が確定」される前に「無罪」であることが示されたという極めて希な事件でもあった。

筆者は、本学部の授業の中で、「メディアの検証」というテーマを設定し、受講生とともに「松本サリン事件」に関する可能な限りの新聞、雑誌記事などを収集し、それらの報道の過程を記録すること、及び、これらの記事を分析することを通して「えん罪」の発生過程をめぐる諸問題を明らかにすることを課題として設定した。

授業では、学生が帰省した際に地元の図書館でコピーした新聞記事と筆者が集めた記事を時系列的に整理し、ファイルに収めた。ファイルは、週刊誌、月刊誌の記事を合わせて62冊に達した。学生には、グループ毎にこれらの記事を分析し、報告書を作成することを課題として設定した。

この事件の経過や問題点については、河野氏らの著作やその他の著作にまとめられているし、各メディアも独自に「検証」しているので、ここでは、上記の学生とともに集めた新聞記事における「見出し」の表現の分析を通して、「犯人像」なるものの生成過程について検討し、若干の考察を試みたい。

2 松本サリン事件の第一報から謝罪への道程

松本サリン事件に関する報道で収集可能なメディアとしては、目下のところ活字メディア以外にはない。テレビなどの映像メディアは、制作者側の許可などの問題から、第三者が閲覧したりチェックしたりすることは困難である。活字メディアでは、日刊紙、週刊紙・誌、月刊誌などがあるが、ここでは、新聞を焦点に当て、記事にされているものをできるだけ漏らさず記録し、それらの「見出し」の一覧を作成した。この見出し一覧は、巻末に掲載してある。

周知のように松本サリン事件は、1994年6月27日午後10時45分頃発生した。新聞は、その性格上、翌日に号外や夕刊にて第一報を報じていた。

その後、翌年の1995年4月21日に朝日新聞が「おわび」記事を掲載したことを手始めに、テレビや新聞各社がこぞって「おわび」をはじめ、同年6月27日には、共同通信社やその

配信社が一斉に謝罪したことで、全国の主な新聞はすべて謝罪したことになるだろう。しかし、あとで見るように、謝罪の時期や内容は、極めて問題点を残すものであり、メディアのあり方が改めて問われている。

第一報から謝罪に至る報道の過程を多少とも詳査すると、事件報道の第2日目で「河野犯人説」が強力に形成されたため、報道関係者はその後の出来事を「客観的」に見ることができなくなってしまったことが明白になってくる。一度作り上げた印象や態度を元に戻すことが困難であることは、日常的に「第一印象」とか「先入見」といった認知の際の諸バイアスなどで経験しているところであるが、「公器」としての使命を持つと自認する新聞報道関係者はなぜ、自らを疑うことができなかったのであろうか。そのことは、報道者の視点を左右する可能性のあった出来事の報道との関連をみると明らかになる。

事件の発生から「河野犯人説」の生成と消滅の過程には、次のよういくつかの岐路が存在していた。以下では、新聞見出しを素材として、この一連の流れにおける認識の形成の過程を検討する。

- | | |
|--------------------------|--------------------|
| 1) 松本サリン事件第一報 | 1994年6月28日付 |
| 2) 「河野犯人説」の確立 | 1994年6月29日付 |
| 3) ガスは「サリン」と判明、農薬からは調合困難 | 1994年7月3日付 |
| 4) 河野氏退院、記者会見、事情聴取 | 1994年7月31日付 |
| 5) 山梨・上九一色村でサリン残有物発見 | 1995年1月1日、3日付 |
| 6) 地下鉄サリン事件発生 | 1995年3月21日付 |
| 7) マスコミ各社の謝罪開始 | 1995年4月21日付～6月27日付 |

1) 松本サリン事件第一報 1994年6月28日付

第一報の記事は、地元紙は「号外」で報じ、夕刊を発行しているメディアは夕刊で、そうでない新聞は、翌29日の朝刊で報じている。それらの見出しを示すと、以下のようになる。

1994. 6. 28(火)付け「号外」「夕刊」

【朝日新聞】「ナゾの有毒ガス 7人死亡 松本市の住宅街 農薬中毒に似る 52人収容 死者2階以上に 解放の窓ガラスからガス侵入？」(夕刊) 「原因は？ なぜ住宅地？ 有機リン系説強まる 専門家 激しい症状に疑問も」(夕刊)
「眠りの街 毒が覆った 松本市 湯船で布団で倒れる 半径70メートル 鳥や魚も 患者殺到 病院は大混乱」(夕刊)

【毎日新聞】「有毒ガス 住民7人死ぬ 松本の住宅街 52人入院」(夕刊)

「有機リン？ 農薬中毒に似る」(夕刊) 「『何が原因』おびえる住民」(夕刊)

「専門家も首ひねる『こんなケースは例がない』」(夕刊) 「深夜の街に死の刺激臭『目見えず激しい頭痛 半径50メートル イヌやハトも』」(夕刊)

【読売新聞】「有毒ガス 7人死ぬ 松本 有機リン系農薬か 中毒症状、52人治療 中心部住宅街」(夕刊) 「突然襲った『正体不明ガス』なぜ 4階まで拡散 専門家も首ひねる」(夕刊) 「“佐久の奇病と” 似る 学者指摘」(夕刊)

「大混乱、深夜の住宅街 松本・7人死亡『早く助けて!』口から泡 蒸し暑い夜 開けた窓 ガス忍び込む」(夕刊)

【日本経済新聞】「見えぬ恐怖 住宅街襲う 松本で刺激性ガス流出」(夕刊) 「『まさか』住民に衝撃 眠れぬ夜、一帯に非常線」(夕刊) 「刺激性ガスで7人死亡 52人を病院に収容 松本市街」(夕刊) 「『何が原因……』募る不安 症状 有機リン系中毒 専門家 自然発生ガスに否定的」(夕刊) 「『目が痛い』『のどが……』半径20メートル以内に被害が集中」(夕刊) 「『吐き気やまぬ』病院で高校生」(夕刊)

【産経新聞】「有毒ガスで7人死亡 深夜の住宅街で刺激臭 52人入院 3人重症 有機リン系の薬物か 長野・松本」(夕刊) 「『目痛い、胸苦しい』半径100メートル内に集中 ハト 犬の死がい路上転々 松本の有毒ガス事故」(夕刊)

「人為的原因の恐れも浮上 考えられぬ自然発生 気道に炎症 神経侵す」(夕刊) 「鼻水でて意識遠のく『農薬中毒に似ている』病院」

【信濃毎日新聞】「松本で住民20人異常訴え病院へ」(号外) 「松本で7人死亡 深夜 有害物質で中毒 約50人 病院に収容」(号外) 「住宅街 恐怖のどん底」(号外)

「松本で7人中毒死 住宅街に有毒害物質 深夜52人手当て 3人重症」(夕刊) 「『有機リン中毒に似る』」(夕刊) 「見えぬ凶器 次々倒れ……単身赴任や学生犠牲 県外出身の一人暮らし」(夕刊) 「揮発性高い物質か 階上窓を開け重い症状 専門家の見方」(夕刊) 「めまい・けいれん・瞳孔収縮 有機リン系ガス?」(夕刊) 「農薬原因説に否定的な見解 農業メーカー団体」(夕刊)

「『神経ガスの可能性高い』」(夕刊) 「住宅街 突然襲った恐怖 ぼう然 なすすべなく うつ伏せ 血を吐いて 松本」(夕刊) 「入浴中や就寝中……息苦しい」(夕刊)

【市民タイムス】「深夜 不明ガスで7人死亡」(号外) 「48人病院で手当て のどの痛みや刺激臭 有機リン酸系の中毒症状 松本市北深志の住宅街」(号外)

「『胸が苦しい』と第一報」(号外) 「市が緊急対策会議」(号外)

【西日本新聞】「ナゾのガス 7人死亡 有機リン系薬物か 半径100メートル52人が中毒症状 松本市の住宅街」(夕刊) 「恐怖の『霧』寝込み襲う 農薬か白アリ剤か 高い気温で拡散? 患者血液酸素が激減」(夕刊) 「農薬原因説に業界は否定的 農薬工業会」(夕刊) 「『目が見えない』悲鳴 消防隊員『眠るな』飼犬 ハト 魚も犠牲 松本有毒ガス事故」(夕刊) 「『初めての症状』医師も青ざめ」(夕刊)

以上の記事からは、まだ、「河野犯人説」なるものは見られず、サリンの被害状況の描写や毒ガスの種類についての推測などである。しかし、信濃毎日新聞と西日本新聞は「農

薬原因説には業界は否定的「農薬工業会」と、農薬ではこのようなガスを生成することは困難であるという記事も掲載されている。全体としては、「混乱した状況」の報道で、毒ガスの被害や原因などは全く不明な状態であることがわかる。

2) 「河野犯人説」の確立 1994年6月29日付

しかし、翌6月29日の新聞記事の見出しは後に示すとおりであるが、その主なものを列挙してみると次のようになる。

「会社員宅から薬品押収」「会社員薬品混ぜ除草剤作る」「農薬調合に失敗か」「ナゾ急転隣人が関係」「あの家が 周辺住民あ然」「死のガスまさかの発生、本人最初に119番」「警察の調べあるかも」「関与ほのめかす」「家族に『覚悟して』」「危険物扱う資格者 知識豊富な通報の会社員」「殺人容疑で会社員宅捜索」

この時点で、これらの新聞メディアは、100パーセント「河野犯人説」に立っていることがわかる。そして、これらのメディアから事件の情報を得た私たち市民は、「第一発見者の会社員は、危険物取り扱いの免許もあり、農薬を調合するのに失敗して、ガスを発生させてしまった、だから、家族には、警察の捜査があるかもしれないから、『覚悟しておきなさい』と念を押していた」との結論を想定せざるを得ない。これは、断片的な犯人像ではなく、河野氏を前提とした、かつ、容易に河野氏を特定できる明確な犯人像が一日の内にできあがっていたのである。

これだけ個人的な属性を指摘されると、いかに「匿名」だったとしても、容易に当該個人を特定することができることになる。むしろ、テレビメディアも同様の報道していたようであるから、私たち個々人における「事件の発生過程の理解と犯人像の形成」という点からは、新聞だけにその責任を求める訳にはいかないことは確かであるが。

他方で、「河野犯人説」に抗する可能性ある記事が「異常な毒性 残るナゾ 農薬の可能性薄い 青酸ガス発生の見方も」という見出しで日本経済新聞に載っていた。しかし、全体として「犯人探し」の枠組みは決まっていたことにより、「農薬ではあのような有毒ガスは発生しない」という知見は、無視されてしまうことになる。

翌30日の見出しでは、「調合ミスで発生 長野県警、見方固める」（朝日新聞）と当局の方針を示し、毎日新聞は『自分で希釈中ガス 松本の中毒死会社員が供述』というように犯人が供述したと思わせる見出しとなっている。その反面「入院中の会社員を聴取 『自分は被害者』と供述」と「被疑者」の意見を見出しで報道したのは、福島民放、上毛新聞、福井新聞という共同通信の配信を利用していた新聞だけであった。

その後、「直接関与を全面否定 弁護士に会社員」（信濃毎日新聞7月1日付）、「『入院の会社員 関与否定』 松本の中毒死弁護士が会見」（日本経済新聞7月2日付）などという

ように、6月30日に3社、7月1日に1社、7月2日に8社が「薬の調合をしていない」という河野氏に対する事情聴取での回答を掲載している。このように河野氏の健康の回復とともに氏の側からの反論が強く出されるようになったことと、「5日経過 肝心な点依然不明 有毒ガス事故 被疑者不詳——消えぬ不安」(市民タイムス7月3日付)という見出しに見られるように有力な物証がなにも明らかにされないことなどから、事件の報道は膠着状態を示すようになる。

1994. 6. 29(水)付け新聞見出し

- 【朝 日 新 聞】**「会社員宅から薬品押収 農薬調合に失敗か 松本のガス中毒」
「毒物と隣り合う暮らしの怖さ (社説)」
「ナゾ急転 隣人が関係 悲劇招いた除草剤作り? 自ら通報 薬品会社に勤務歴」 「住民『これで眠れる』『断じて許せぬ』遺族ら怒り」
「松本ガス中毒 押収薬品 青酸カリなど20種」
「雨の深夜不審な調剤 動機は? 深まるナゾ松本の中毒死」
「素人の調合に危うさ 酸混入で出やすいガス」
- 【毎 日 新 聞】**「第一通報者宅を捜索」「調査『間違えた』救急隊に話す 薬品類を押収」
「第1通報から40分の空白 11時9分から48分まで 発生源特定の手掛かりに」
「『オレはもうダメだ』座り込む会社員 症状訴え救急隊員に」
「以前から薬品に興味」 「市販の殺虫剤と除草剤 加熱で有毒ガス発生も」
「納戸に薬品二十数点 以前から収集か 重過失致死傷容疑 会社員を聴取へ 松本の中毒死」 「取り扱い免許所持 毒劇物」
- 【読 売 新 聞】**「通報の会社員宅捜索 薬品数点を押収 本人は入院中 除草剤調合ミスか 捜査本部 松本のガス中毒」 「住宅街の庭で薬物実験!? 押収薬品『殺傷力ある』会社員宅 被害地域の中心に位置 松本のガス事故」
「『あの家が……』 周辺住民あ然 原因わかり安ど 事件の急展開に驚きも」
「夫婦ともに重傷 入院の会社員」
「通報の会社員を聴取 押収薬品、20点余松本の農薬中毒 有機溶剤の資格 聴取の会社員」 「『住民 一様に驚き』松本市の農薬中毒」
「『なぜ住宅街で……』 不審がる住民ら」
- 【日 本 経 済 新 聞】**「死のガス まさかの発生源 本人、最初に119番『胸苦しい』と家族と入院 松本」 「異常な毒性 残るナゾ 農薬の可能性薄い 青酸ガス発生の見方も」
「入院の会社員宅捜索 薬品数種類を押収 松本の有毒ガス惨事」
「押収薬物の分析急ぐ 県警、入手経路など追及 県警 入手経路などを追及」
「『なぜ 住宅街で……』 不安がる住民ら」
- 【産 経 新 聞】**「有毒ガスで7人死亡 通報者宅から薬品押収 松本」
「原因やはり人為的 関係者から事情聴取 住民ら不便な生活続く松本の集団ガス中毒事件」 「なぜこんなことを……押収薬品を解明へ」
「安全宣言に『ホッ』入院患者ら快方へ 松本の『有毒ガス』事件」(夕刊)

「『警察の調べあるかも』 通報の会社員 家族に話す 有毒ガス事件」(夕刊)

「関与ほのめかす 会社員『警察の調べ覚悟を』 有毒ガス事件」(夕刊)

【**信濃毎日新聞**】「通報の会社員宅を捜索 薬品類数点を押収 松本の有毒ガス」

「病院内で事情を聴く 入院・治療は58人に」

「有毒ガス 微風で滞留か『白い霧状』 目撃証言も 種類・性質なお特定できず」

「惨事 なぜこんなことを 走る いい知れぬ衝撃 まさかの事件 真相は松本の有毒ガス」 「数種類の農薬混合か 高熱でも有毒ガス発生」

「ザリガニ、庭木の変色……ガス発生源 断定 県警会見」 「全容把握 立ち遅れ 初期救助、避難誘導鈍く 危機管理のあり方課題 松本の有毒ガス」

「警官や消防署員も 3人が中毒症状 病院へ」 「集団ガス中毒の意外な展開 (社説)」

「会社員 関与ほのめかす 松本の有毒ガス 家族に『覚悟して』 薬品20点余 鑑定急ぐ 被害者75人に」(夕刊)

「何のため 薬物混合? 自宅で処理 化学反応 専門家の見方 複数の薬品で発生か 松本の有毒ガス」(夕刊)

「死因特定至らず 3体の司法解剖終わる」 「原因特定へ捜査詰め 危険物扱う資格者 知識豊富な通報の会社員」(夕刊)

「病院 捜査員の出入り挙げしく 通報会社員の収容先」(夕刊)

【**市民タイムス**】「殺人容疑で会社員宅捜索 松本の住宅街で7人中毒死」

「のどの痛み刺激臭訴え 58人が病院で手当て」

「信じられない突然の悲報 単身赴任や学生犠牲に 松本の中毒事故」

「『安心して眠れない』 地域住民の不安募る」

「『救急車乗り合って』 対応に追われる6病院」

【**福島民報**】「有毒ガス 7人死亡 殺人容疑 近くの会社員から聴取 長野・松本」

「一転、殺人容疑に 全容解明には時間」

【**下野新聞**】「住宅街に有毒ガス7人死亡 近くの会社員を聴取 自宅庭で除草剤作る」

「『目が見えない』 女性悲鳴 深夜 有毒ガスの恐怖 松本」

「農薬中毒特有の症状 霧状で窓から流れ込む?」

【**上毛新聞**】「除草剤を製造? 猛毒ガス7人死亡 松本」

「重軽傷58人 殺人容疑で会社員聴取」 「前橋出身の男性も犠牲」

「悲鳴『目が見えない』 地面に恐怖の霧 深夜の住宅街パニック 松本の毒ガス」

【**埼玉新聞**】「隣接の会社員宅捜索 7人死亡長野のガス事故 薬品押収し聴取」

【**神奈川新聞**】「有毒ガスで7人死亡 会社員宅で薬品類押収 長野県松本市」

「殺人容疑で現場近くの同市北深志、会社員(44)の自宅を捜索、薬品類を押収した」

「対面、泣き崩れる遺族 去らぬ恐怖、不安な夜 長野・松本の有毒ガス事故」

【**福井新聞**】「眠りの街 死の霧襲う 松本・7人死亡」 「頭痛 もがき倒れる 半径100メー

トル ハト 犬も」 「捜査急展開 なお恐怖」

「有毒ガス発生 7人死亡 殺人容疑で会社員捜索 薬品類を押収」

「松本 深夜の住宅街 58人が重軽症」

【西日本新聞】「ナゾ急転 まさかの隣家 風上の庭先で発生 会社員 最初に一一九番通報」

「数種の農薬混ぜる？ 有毒ガス 高熱、水分にも反応」

「殺人容疑で民家捜索 会社員薬品混ぜ除草剤作る 有毒ガス事件」

「会社員を聴取へ 薬品の鑑定急ぐ 長野県警が自宅再捜索 松本の有毒ガス」

3) ガスは「サリン」と判明「農薬からは調合困難」 1994年7月4日付

そして、7月4日には、「毒ガスはサリン」と断定されたことを各紙がこぞって報道している。

いま考えれば、市販されている農薬からサリンを発生させることは不可能であることは容易に理解される場所であるが、「サリン」というガスが特定されてもなお、メディアは「専門家」に「『日常の物質で製造可能』偶発的発生も」(毎日新聞7月4日付)、「市販物質で化合可能 調合ミスか意図的製造か 専門家の見方」(信濃毎日新聞7月4日付)と「河野犯人説」を裏付ける「見解」を載せている。これに対して、「松本の『有毒ガス』サリン発生『農薬混合説』を否定」(産経新聞7月5日付)や「サリン 農薬から生成困難 薬品調合も複雑」(信濃毎日新聞7月8日付)や「偶発性きわめて低い 農薬からはまずできない」という信州大教授の見解(市民タイムス7月9日付)が紹介されているし、「『農薬調合』で合成困難 器具や容器も痕跡なし」(朝日新聞7月12日付)、「サリン 農薬から生成困難 薬品調合も複雑 だれが……深まるナゾ 松本の中毒」(信濃毎日新聞7月8日付)、「押収した薬品24種類 サリンの合成不可能 専門家らの見解一致」(朝日新聞7月11日付)という記事も掲載されている。これは、極めて重要な出来事であるので、見出しの次の概要を引用しておく。

「長野県松本市のガス中毒死事件で、長野県警の捜査本部が第一通報者(四四)宅から押収した二十数種類の薬品、化学物質だけでは、猛毒の神経ガス『サリン』の合成はできないことが十一日、同本部の調べで明らかになった。しかし、サリンは現場からは検出されており、捜査本部は、サリンの合成に必要な薬品流通ルートにさかのぼって捜査を進めている。(朝日新聞1994年7月11日付)」

この記事の取材源は、長野県警の捜査本部である。「河野犯人説」の最大の根拠は、「自宅付近で農薬を調合していて誤ってガスを発生させてしまった」という仮説にあった。したがって、「農薬からサリン調合は不可能」という事実が確認された時点で、「河野犯人説」は棄却されるべきのものであった。しかも、「押収された薬品からはサリンは合成できない、容器にもその痕跡がない」ということなどが判明したのである。しかも、それは当の捜査本部の見解でもあったのである。

7月4日以降、「見出し」記事において、サリンの「農薬調合説」を可能とする記事は、7月4日付けで3社、7月9日、7月16日に各1社の計5社が報道している（本稿で調べた新聞社の中での意、以下同様）。

これに対して、「農薬からの調合は不可能」という記事はも7月14日付けまでに5社が報道している。このように、メディア自身もまた「河野犯人説」を覆すことができないでいることがわかる。「農薬調合説」が不可能であることが明白になりつつあったにもかかわらず、なぜ、メディアは「河野犯人説」を破棄することができなかったのだろうか。

ここでも、強固に形成された事件についての「構え」が、新たな意見や見方への転換を拒絶していたのである。つまり、物事を「客観的」に捉えることは不可能であるが故に、絶えず「疑いながら対象の表現を行う」という認識論的意味をその本質において理解することが不十分であったためにこうした事態を招来させたのである。

そして、そのような「構え」を形成し維持し支えていく体制としての警察のあり方、メディアのあり方、そして、メディアと警察の関係のあり方が次に問題とされねばならないであろう。しかし、このことは本稿の課題ではないので、ここではこれ以上触れない。

4) 河野氏退院、記者会見、事情聴取 1994年7月30日・31日付

河野氏が退院し、記者会見を行い、その後任意出頭という形での事情聴取が延々7時間も行われた。「県警が参考人聴取——退院後の記者会見を終え、事情聴取のために松本署に入る第一通報者の会社員（日本経済新聞7月30日付）」という概括的な記事から、「捜査本部が7時間聴取 どこに怒りをぶつければ…… 入院生活顔色白く 『無関係』ときっぱり（下野新聞7月31日付）」と河野氏のきっぱりとした態度まで報告されている。しかし、河野氏をとりまく状況は、「100人を超す報道陣 病院騒然 退院の会社員 “追跡劇、も（市民タイムス7月31日付）」という状態であり、この時点ではまだ「河野犯人説」がうごめいていたといえよう。そして、新しい事実も見いだせぬまま、「会社員から連日の聴取 松本のガス事件（毎日新聞8月1日付）」「ナゾ解けぬまま1カ月 サリン（毎日新聞8月1日付）」という事態を迎えていたところに『核に匹敵する薬開発』中年のタクシー男性客 スナックで同様の発言も（信濃毎日新聞8月1日付）」という流言も真剣にとりざたされていた。この後、松本サリン事件に関する新聞報道はめっきり少なくなり、それ以降の毎月の27日は、「松本サリン事件から〇カ月、解決の……」という見出しが繰り返されることになる。しかし、現実には、河野さんとその無罪を確信する市民は、「報道と捜査を問う会発足 公開質問状をマスコミへ 有毒ガス事件 15日に集会（市民タイムス9月9日付）」とマスコミや警察への積極的な運動を開始しようとしていた。

5) 山梨・上九一色村でサリン残留物発見 1995年1月1日付

この年の元旦に「サリン 残留物を検出 山梨の山ろく『松本事件』直後 関連解明急ぐ 長野・山梨県警合同で (読売新聞)」という見出しが掲載された。3日にはほとんどの新聞が同種の記事を掲載していた。これによって、私たちは新たなサリンの製造者の存在を予想することになったといえよう。この後、3月20日の地下鉄サリン事件発生までは、メディアが報道した松本サリン関係記事は、「第一通報者が会見 報道や捜査を非難 マスコミ告訴の準備も (市民タイムス 2月7日付)」や「人権救済申し立て 第一通報者 日弁連に 『捜査で犯人扱い』 (日本経済新聞 3月4日付)」などであった。

6) 地下鉄サリン事件発生 1995年3月20日付

3月20日には、「第一通報の会社員が信濃毎日新聞を提訴」(朝日新聞 3月20日付夕刊)と河野氏の記事と同時に、「何が……乗客バタバタ 嘔吐 全身けいれん 被害者 瞳孔縮む 松本サリンに類似」(日本経済新聞 3月20日付夕刊)と、東京地下鉄サリン事件が報道されていた。

7) マスコミ各社の謝罪開始 1995年4月21日付～6月27日付

謝罪は、1995年4月21日の朝日新聞が最初で、ちょうど事件から1年経った同年6月27日に共同通信社及びその配信を利用している各社が謝罪して、新聞社の謝罪は一段落した。

以下に、実際に記事を収集できたいわゆる全国紙と地方紙から、謝罪文を全文掲載しておく。

【朝日新聞】 1995. 4. 21(金)

「河野さんに本社謝罪 『農薬調合ミス』報道で 松本有毒ガス事件」

「おわび」

昨年六月二九日付け朝刊1面「会社員宅から 薬品押収 農薬調合に失敗か」の記事などで、河野義行さんが農薬を調合して有毒ガスを発生させた、との印象を読者に与え、河野さん並びにご家族、関係者にご迷惑をかけたことをおわびします。

【読売新聞】 1995. 5. 12(金)

「河野さんに本社謝罪 松本サリン事件報道の一部に誤り」

読売新聞社は、昨年六月二十七日深夜、長野県松本市で七人の死者を出した「松本サリン事件」をめぐる一連の本紙報道について、取材方法、記事内容の両面から社内調査を行った。発生から十か月過ぎた今も事件は未解決で、長野県警による捜査が続いているが、社内の調査の結果、事件の第一通報者である会社員河野義行さん(四五)(松本市北深志一)に関する記述に、事実と反する、

あるいは結果として裏付けのない部分があることが判明した。

それは、九四年六月二十九日から七月十五日にかけての一連の記事で、特に①六月二十九日付朝刊（一部三十日付朝刊）「通報の会社員宅捜索 除草剤調合ミスか」 ②七月十五日付夕刊（一部十六日付朝刊）「薬剤使用ほのめかす 事件直後に会社員」の二件。二つの記事とも、捜査当局への確認など、通常の取材を積み重ねて報道されたが、事実反する記事などとしては

①の記事では、「会社員が（最終十四版以降は「会社員宅で」）除草剤を造ろうとして発生させたものと判明した」など。しかし、除草剤の調合ミスでサリンが発生することはなく、長野県警捜査本部も、会社員が（あるいは会社員宅で）調合をミスした事実を確認していないことがわかった。

②の記事では、捜査本部に対する関係者の証言として「会社員が病院に運ばれる直前、薬剤を使っていたことをほのめかし」などと記述したが、その裏付けはなく、長野県警も再取材に対し「そういう事実は確認していない」と否定した。

これらの記事は、匿名で報道されたが、前後の報道から河野さんにかかわる事実関係であるとの印象を読者に与えた。

読売新聞社は十一日、この社内調査の結果を河野さんに伝え、河野さんにご家族、関係者にご迷惑をかけたことを謝罪しました。また、河野さんの名誉回復と読者の皆様におわびするため、調査結果を紙面に掲載することにしました。

【産経新聞】1995. 5. 27(土)

本紙「松本サリン」報道「河野さんに疑惑、の印象 河野さんと読者におわびします。

地下鉄サリン事件は警視庁など捜査当局の調べでオウム真理教による教団ぐるみの犯行であると断定された。また、昨年六月に発生した長野県松本市の松本サリン事件も地下鉄サリン事件の逮捕者の供述などからオウムの犯行との疑いが濃くなっている。

とくに松本サリン事件については、当初、事件を最初に一一九番通報した会社員、河野義行さん（四五）＝同市北深志一ノ一三ノ二＝に関する産経新聞社の報道の一部に事実と反する部分があり、河野さんに謝罪するとともに、読者の皆様におわびします。

松本サリン事件は昨年六月二十七日深夜に起きた。長野県松本市の住宅街で有毒ガスが発生、七人が死亡、六百人の重軽症者が出た。同事件で長野県警捜査本部は、有毒ガスの発生源が事件の第一通報者である河野さん宅の南側にあり、コイヤザリガニが死んでいた池が有力と見て、翌二十八日夜、河野さんの自宅を被疑者不詳の殺人容疑で家宅捜索。びんなどに入ったシアン化カリウム（青酸カリ）など薬品類を押収した。

産経新聞社では六月二十九日付朝刊で、「薬品数点を押収」「自宅で薬剤の調合誤る？」という見出しで、「捜査本部は河野さん宅で歌人が薬剤調合しているうち誤って有毒ガスが発生したとの見方を強めている」などと報道した。また翌三十日付朝刊では「関与ほのめかす」という見出しで、河野さんが家族に「（警察の）調べがあるかもしれない。覚悟しておけ」と漏らしていたと報じた。

捜査本部が「現場に発生したガスはサリン」と発表したのは事件から一週間後の七月三日だった。初めて聞く名前だった。が、当時、現場生成説が強かったうえ、「殺虫剤などを作ろうとしてミスで発生したのかもしれない」と指摘する声もあり、「調合ミス説」を捨てることができなかった。その後の取材で、河野さん宅から押収された薬品類ではサリンが合成できないことが判明し

た。

また、サリンの発生源も河野さん宅の池ではなく、隣接した駐車場の可能性が高くなり、事件発生直前、駐車場から走り去るワゴン車が目撃されていたことも新たに分かった。

松本サリン事件は発生からまもなく一年が経とうとしている。これまでの報道の過程で、河野さんが有毒ガスを発生させたかのような印象を読者に与えてしまったことは事実である。河野さんならびにご家族、関係者、そして読者の皆様にご迷惑をかけたことを深くお詫びします。

(長野支局長 河合映治)

【信濃毎日新聞】 1995. 6. 2(金)

お わ び

信濃毎日新聞社は、『松本サリン事件』発生の初期段階で、昨年六月二十九日付夕刊一面『社員関与をほのめかす』、同七月二日付朝刊三十一面(社会面)『押収品にフロン系物質』などの報道をしましたが、一日、警視庁などの捜査当局が事件をオウム真理教団の組織的犯行と断定したことから、河野義行さんは無関係であることが判明しました。これらの記事において、河野さんの実名は出さなかったものの、結果として、河野さんならびにご家族、関係者の皆様にご迷惑をおかけしました。ここに心からお詫びします。

【市民タイムス】 1995. 6. 3(土)

お わ び

松本サリン事件は捜査当局の調べで、オウム真理教団による犯行との見方が固まりました。市民タイムスは一連の事件について、より正確な報道と第一通報者の河野義行さんの人権に配慮し、匿名にするなど客観報道を心掛けてきましたが、結果的に河野さんにご迷惑をおかけした部分がありました。お詫びします。

市民タイムス

【毎日新聞】 1995. 6. 6(火)

「本社、河野さんに謝罪 松本サリン事件報道で」

長野県松本市で昨年六月に発生した「松本サリン事件」で、第一通報者の同市北深志一、会社員、河野義行さん(四五)に関する毎日新聞の一連の報道に事実と反する部分があったことが、本社の内部調査で分かりました。訂正すると同時に、河野さんと家族ら関係者の名誉を傷つけ、ご迷惑をおかけしたことをお詫びいたします。

問題の記事は、①昨年六月二九日付朝刊(東京本社発行の最終版、以下同じ)「調査『間違えた』救急隊に話す」 ②同日付け朝刊「『オレはもうダメだ』座り込む会社員」 ③同月三十日付朝刊社説「怪奇な事件の恐ろしい背景」 ④「同日夕刊「会社員が供述『自分で希釈中ガス』——です。

①②④の記事とも、調査で記述の部分の裏付けがないことが判明しました。③はこうした記事を引用したもの。いずれも匿名でしたが、河野さんが事件にかかわっている印象を読者に与えました。捜査当局への確認など不十分な点があったことを誠実に反省、今後こうしたことを繰り返さないために全力を挙げます。

七人が死亡、六百人近くが被害を受けた事件は、オウム真理教幹部らの供述から、教団が関与し

た疑いが濃厚となっており、捜査当局も近く強制捜査に乗り出すと見られています。毎日新聞は五日までにこの調査結果を河野さんに伝え、謝罪しました。また、この事件に関する本社の報道の検証を7面に掲載しています。毎日新聞社

【日本経済新聞】 1995. 6. 13(火)

松本サリン事件 第一通報者は無関係

おわび

「松本サリン事件」に関し九四年六月二九日付けから七月五日付けまでの本紙の記事の中に、事件の第一通報者宅から有毒ガスが発生した、あるいは第一通報者が有毒ガスを発生させた、と受け取れる部分がありました。これは誤りでした。長野県警は同六月二八日から、容疑者を特定しない殺人容疑で第一通報者宅を家宅捜索しました。しかし、その後ガスがサリンであったことが判明し、第一通報者はガスの発生とは無関係であることが明らかになっています。第一通報者やそのご家族、関係者に迷惑をおかしたことをおわびします。日本経済新聞社

【下野新聞】 1995. 6. 27(火)

おわび

昨年六月二十七日、長野県松本市で起きた「松本サリン事件」について捜査当局は二十六日までに、事件をオウム真理教の犯行と断定しました。下野新聞社は同事件を警察の発表と共同通信社の取材に基づき報道してきましたが、報道の過程で匿名ながら同事件の被害者で第一通報者の会社員、河野義行さん（四五）が有毒ガスを発生させたかのような印象を与える記事を掲載しました。これは誤りでした。

河野さんには五月末に共同通信社を通しておわびし了解を得ましたが、この機会に、ご本人はじめ関係者に迷惑をお掛けしたことをあらためておわびします。下野新聞社

【上毛新聞】 1995. 6. 27(火)

河野さんに深くおわび

昨年六月、長野県松本市で起きた「松本サリン事件」について捜査当局は本日までに、事件をオウム真理教の犯行と断定しました。上毛新聞社と共同通信社は同事件を警察の発表と取材に基づき報道してきましたが、報道の過程で同事件の被害者で第一通報者の会社員、河野義行さん（四五）が有毒ガスを発生させたかのような印象を与える一部記事を掲載しました。これは誤りでした。

河野さんには共同通信社が五月末におわびし了解を得ましたが、事件発生一年を機会に、ご本人はじめ関係者に迷惑をお掛けしたことをあらためておわびします。上毛新聞社

【福島民報】 1995. 6. 27(火)

おわび

昨年六月、長野県松本市で起きた「松本サリン事件」について捜査当局は二十六日までに、事件をオウム真理教の犯行と断定しました。共同通信社は同事件を警察の発表と取材に基づき報道してきましたが、報道の過程で同事件の被害者で第一通報者の会社員、河野義行さん（四五）が有毒

ガスを発生させたかのような印象を与える一部記事を共同通信社加盟の新聞社、契約社に配信しました。これは誤りでした。河野さんには五月末におわびし了解を得ましたが、この機会にご本人をはじめ関係者にご迷惑をお掛けしたことを、あらためておわびします。

【埼玉新聞】 1995. 6. 27(火)

おわび

昨年六月、長野県松本市で起きた「松本サリン事件」について捜査当局は本日までに、事件をオウム真理教の犯行と断定しました。共同通信社は同事件を警察の発表と取材に基づき報道してきましたが、報道の過程で同事件の被害者で第一通報者の会社員、河野義行さん(四五)が有毒ガスを発生させたかのような印象を与える一部記事を共同通信社加盟の新聞社、契約社に配信いたしました。これは誤りでした。河野さんには5月末におわびし了解を得ましたが、この機会に、ご本人をはじめ関係者に迷惑をお掛けしたことを、あらためておわびします。

【神奈川新聞】 1995. 6. 27(火)

おわび

昨年六月、長野県松本市で起きた「松本サリン事件」について捜査当局は本日までに、事件をオウム真理教の犯行と断定しました。共同通信社は同事件を警察の発表と取材に基づき報道してきましたが、報道の過程で同事件の被害者で第一通報者の会社員、河野義行さん(四五)が有毒ガスを発生させたかのような印象を与える一部記事を共同通信社加盟の新聞社、契約社に配信。神奈川新聞社は使用しました。これは誤りでした。河野さんには五月末におわびし了解を得ましたが、この機会に、ご本人をはじめ関係者に迷惑をお掛けしたことを、あらためておわびします。

【福井新聞】 1995. 6. 27(火)

【おわび】

昨年六月、長野県松本市で起きた「松本サリン事件」について捜査当局は本日までに、事件をオウム真理教の犯行と断定しました。福井新聞社は共同通信社の配信に基づき、同事件の被害者で第一通報者の会社員、河野義行さん(四五)が有毒ガスを発生させたかのような印象を与える記事を掲載しましたが、これは誤りでした。河野さんをはじめ関係者に迷惑をお掛けしたことを、おわびします。

【西日本新聞】 1995. 6. 27(火)

おわび

昨年六月、長野県松本市で起きた「松本サリン事件」について捜査当局は本日までに、事件をオウム真理教の犯行と断定しました。共同通信社は同事件を警察の発表と取材に基づき報道してきましたが、報道の過程で同事件の被害者で第一通報者の会社員、河野義行さん(四五)が有毒ガスを発生させたかのような印象を与える一部記事を共同通信社加盟の新聞社、契約社に配信いたしました。これは誤りでした。河野さんには五月末におわびし了解を得ましたが、この機会に、ご本人をはじめ関係者に迷惑をお掛けしたことを、あらためておわびします。

3 松本サリン事件報道の謝罪と市民の課題

1) メディアの謝罪の問題

まず、上記の新聞の謝罪の対象をまとめてみると次のようになる（以下の表の○印が各社が明記した謝罪の対象者）。

メディア／対象	河野氏	家族	関係者	読者
朝日新聞	○	○	○	×
読売新聞	○	○	○	○
産経新聞	○	○	○	○
信濃毎日新聞	○	○	○	×
市民タイムス	○	×	×	×
毎日新聞	○	○	○	×
日本経済新聞	○	○	○	×
共同通信社	○	×	○	×

*（注）日本経済新聞社は、河野氏ではなく、「第1通報者」を対象としている。

なお、産経新聞社は、長野支局長名での謝罪である。

以上のように、各新聞の謝罪の対象は、まず、河野氏、そして家族と関係者であった。このことは当然のことであるが、読売新聞社と産経新聞社だけが「読者」に対してもお詫びをしていたことが特筆されよう。このように、「公器」と自負している新聞が、単に、関係者のみに「お詫び」するという姿勢は、何とも不可解なことである。しかも、こうした謝罪を行うきっかけは、河野氏がマスコミ各社を名誉毀損などで提訴する構えを明らかにし始めてからであるという。なお、河野氏とマスコミ各社との「示談書」もしくは「合意書」の作成過程は、河野（1995）に詳しい。

こうした経過からは、「公器」を自称しながら、時としてその「社会的責任」を十分に取りえないでいる今日のマスコミのモラルのレベル低さが明らかになっているといえよう。

2) メディアの課題と市民の課題

新聞記事は、他の報道一般と同じく、出来事のすべてを正しくを報道しているのではなく、ある出来事の全体の一部を、一定の先入見や偏見を有している記者の独自の解釈をもとに切り出し、その記者なりに表現したものである。このことは、人間の認識一般に通じることでもある。ある事象の一部しか表現しえないことに記事作成の本質があるとする

と、厳密に考えれば、あらゆる記事は、常に、「事実であるかもしれないし、虚偽であるかもしれない」という危うい関係にあるといえよう。そして、このことは、報道全般にもあてはまることである。したがって、その記事をそのまま「真」とするか「偽」とするか、はたまた「保留」とするかは、この情報の受け手、つまり、私たち市民の一人一人の良識とか価値観とか人間性とでも表現されるその人独自の思想によって異なってくるのである。

メディア側には、事象の全体像を把握すること、及び全体の文脈の中である事象の位置を明確にしながら記事に表現することが不可欠であり、全体像が不明の場合の事象にたいしては、記者独自の解釈や推測をしてはならないのである。しかし、いかなる事象もある個人の「主観」を介してのみ理解・表現されるのであるから、このことは不可能なことである。この限界性を補う唯一の方法としては、「認識の集団化」もしくは「集団的認識」を行うことが重要な課題となってくる。つまり、多数の「主観」による事象の理解のための検討を行うことが不可欠になってくるのである。おそらく、今日の新聞編集においては、記者からデスクへといった時系列的討議はなされていると思われるが、現場記者とデスクとその事象に関わりのある関係者の同時的討議は欠けているのではないだろうか。以下に示す朝日新聞自身の検証は、このことを示すよい例ではないだろうか。

1994年6月28日に松本サリン事件に関して朝日新聞松本支局から東京本社に送った原稿にはない表現が、東京本社社会部によって加えられていたという。返送された確認用の記事は、「会社員は、(略)数種類の薬品から農薬を作ろうとしているうちに、調合を間違え、毒のガスが大量に発生したらしい(朝日新聞取材班 1996 p.224)」という表現となっていたという。松本支局の記者が送った原稿の表現は不明であるが、松本支局の記者は、長野県警捜査一課長の記者会見(河野氏宅を被疑者不詳のまま殺人容疑で家宅捜索し、薬品類数点を押収したことについて)では、1994年6月28日夜では、「農薬調合の間違い」というような内容はなかったし、したがって、上述のような表現は原稿にはしていないというのである。この表現に類似する実際の記事は、次のようになっている。

「これまでの捜査では、男性は薬品の扱いに多少知識があり、数種類の薬品から農薬を作ろうとしているうちに、調合を間違え、毒性のガスが大量に発生したとみている。農薬は庭の除草のために使おうとしていたという。庭には薬品の調合に使った皿や薬品ビンなどがあった。(朝日新聞1994年6月29日付)」

このような記事内容の変更のいきさつについて、朝日新聞取材班の調査では、「記事の追加部分は社会部が独自に取材してつかんだ捜査当局の見方(朝日新聞取材班 1996 p.224)」によって書き加えたということである。

会見では発表されていない捜査当局の「見方」が、現場の記者ではなくて東京本社が

どのようにして把握したのであろうか。朝日新聞取材班は、このことについては全く触れてはいない。

いずれにせよ、翌日の新聞記事は、なぜか、会見では表明されなかった「農薬調合」説に基づいた報道一色に染まっていたことは周知の事実である。なぜ、どのようにして、マスコミ各社は、「公」にされていない事実をつかんだのであろうか。このことについては、「第一通報者」「会社員」である河野氏の以下のような指摘は極めて説得的である。

「私の場合は、ほとんどすべてのマスコミが警察情報に乗って松本サリン事件で犯人扱いをした。こうした警察情報は正式に発表されたものではなくてすべてリークという形でなされた。警察の幹部や捜査員が、内々に捜査情報を特定のマスコミに教えるというやり方です。

警察にとっては正式発表ではないから責任をとらずに済む。一方のマスコミは自社だけのスクープにつながるという理由からリーク情報を競って取り合うことになる。それが事実なのかどうかという主体的な検証もなく、『警察はこう見ている』というだけで記事にしてしまう。それが間違っていたとしても、警察が判断していたことだから自分たちに責任はないと逃げてしまう。リークは警察、マスコミ双方にとって極めて都合のいいやり方です。（河野 1996 p.121）」

そして日弁連人権擁護委員会の、次のような指弾も重要である。

「各報道機関が事実上申立人を本件の『犯人』として10カ月近くも間断なく報道し続けてきた責任は重大である。報道機関の誤った報道の原因は、警察捜査情報についての厳しい吟味をすることなく、あるいは捜査情報に乗せられて被報道者の側の利害にほとんど考慮を払うことなく、むしろ捜査側により一層密着して、読者や視聴者の興味に答えるべく、事実を針小棒大に描く報道姿勢にあった。

この姿勢は、今や報道機関の性向・気質といっても過言でなく、報道内容が被報道者の名誉やプライバシーを侵害するとして数多くの責任追及がなされているのに、この傾向は改まることはなく、同様の過ちを繰り返している。この傾向は、事件が重大であればあるほど拡大して再現され、特に事件の犯人は誰か、犯人の人物像を詳細かつ興味本位に描き出して報道しようとするため、一層誤った報道になっている。

本件の申立人に関する報道がまさにその典型例の一つであって、各社は横並びに申立人の名誉・プライバシーを侵害する大同小異の報道をして、これまた大同小異の横並びの陳謝をした。（日本弁護士連合会人権擁護委員会 p.20）」

4 終わりに

情報化社会におけるインターネット等情報通信手段の発展の中で、これまで一方向的伝達であったマスコミに代わって、情報の「双方向的伝達」が可能になってきている。筆者は、こうしたときに、個人が情報を発信する際には、これまでのマスコミが築いてきた倫理綱領などを個々人のものすることが必要であると考えていた。たとえば、「ユネスコ＝マスメディア基本原則宣言」、「日本新聞協会新聞倫理綱領」、「日本民間放送連盟放送基準」など多数の倫理基準が作成されている。

しかし、現実には、それだけでは片づけられない根本的な問題が残っていることに気づいた。まず、第1は、こうした倫理基準なるものは、一人一人の記者にどれだけ理解されているかという問題であり、第2には、組織体としてのメディアはそれ自体が営利の追及という至上命題を抜け出せないという限界性との関係で得られた情報もいかようにでも解釈されることが可能であるという問題である（注1）。

たとえば、新聞などのメディアの「松本サリン事件」報道で、なぜ、虚偽の報道を行ったか、また、その原因の把握や今後の対策等についての自己反省が極めて不十分であることにもこうした現実的社会的関係の問題を反映しているものと考えられる。このことについては、「松本サリン事件——虚報の責任と改革案 マスコミ十九社と警察関係社に聞く」に詳しい（浅野／河野 1996）。

これは、メディアが作った倫理基準なるものが、そのときどきのメディア自身によって多様に解釈される、ということを示しているのである。これが第2の問題である。

マスコミの倫理基準を個々人の情報発信の倫理基準とすることは可能であろうが、それはあくまで「一方向」の伝達という限界を内包せざるをえないであろう。

おそらく、「双方向」「時間的空間的同時性」といった新たな状況下での「倫理基準」は、あくまで「双方向性」の実現の過程で練り上げていかねばならないのであろう。さらに、松本サリン事件の報道過程の諸問題は、どんな「倫理基準」であっても、それを有効にするか無効にするかは、その都度の社会システムのありように依拠せざるをえないこと、したがって、単に、マスコミの倫理基準の健全化・精錬化だけではなく、社会システムそれ自体の健全化・精錬化などが不可欠であることを如実に示していよう。

<付記>

なお、筆者は、1999年の夏に「市民タイムス」と「信濃毎日新聞」の記事の最終チェックのために松本市立図書館に行ったが、帰路のカーラジオから、当時信州大学の学生だっ

た方の妹が拉致されたということを知った（その後、この事件は狂言であったことが判明した）。また、「介護を終えて私が帰ろうとすると、妻が泣く。全部聞こえていると思う（朝日新聞1999年6月27日付）」という河野氏の奥さんや被害者やそのご家族の方、地下鉄サリン事件の被害者の方々を思うと、未だ、事件は解決されてはいないのだということを実感せざるをえない。被害者の方々の一日も早い心身の治癒や犯人に対する刑の確定、損害賠償の実施などを祈らずにはおられない。そして、同時に、ここで見てきたメディアに真の反省を促し、あるいは、メディアを監視していく新たなネットワークを構築することが必要であることを感じている。

そして、なによりもまず、私たち自身も、メディアは事実のほんの一部を伝えているにすぎないし、それは記者やデスクによって解釈された、表現されたものであるという視点を確かめながら、あらゆる「報道」に接していくことが今後ますます必要になってくるであろう。

本稿で使用した全国紙及び市民タイムス、信濃毎日新聞及び、朝日新聞 CD-ROM 版は、筆者が収集したものであるが、いわゆる地方紙は情報行動実験実習を受講している学生が収集したものを使用した。これらの受講生に謝意を示したい。

<注>

（注1） 大石泰彦は、マス・メディア倫理の主体は誰であるのかについて、次のように述べている。

「わが国におけるマス・メディア倫理とは経営者がその主体となる『企業倫理』あるいは『業界倫理』であり、マス・メディア内部においてわが国のジャーナリズムを担うべく活動しなければならないジャーナリストは、それ（倫理）によって厳重に拘束される立場に立つのである。また、マス・メディアの外側であって自らの「知る権利」をそれにゆだねている一般市民が、こうした倫理構造から疎外されていることは言うまでもない（大石 1997 p.32）。」

<参考文献>

- 朝日新聞取材班 「松本サリン事件 新聞・テレビは謝罪した」 戦後50年メディアの検証 三一書房 1996
- 浅野健一／河野義行 松本サリン事件報道の罪と罰 第三文明社 1996
- 大石泰彦 「ジャーナリズム論」 マス・コミュニケーション研究 50 日本マス・コミュニケーション学会 1997
- 河野義行 「あの夜 私の家で起こったこと」 文芸春秋 1994年9月号
- 河野義行 「私の『被疑者』日記」 文芸春秋 1995年8月号
- 河野義行 「『疑惑』は晴れようとも 松本サリン事件の犯人とされた私」 文芸春秋社 1995
- 河野義行 「松本サリン事件 冤罪を生み出す警察と新聞の野合」 文芸春秋 1996年6月号

河野義行オフィシャルホームページ：<http://www2k.biglobe.ne.jp/~ndskohno/>

黒須俊夫 「メディアと県民意識——震災報道とメディア意識——」 平成7年度特定研究報告書 群馬大学社会情報学部 1996

黒須俊夫 「県民のメディア意識とメディア行動」 群馬大学社会情報学部研究論集 第3号 1997

黒須俊夫 「コミュニケーションと情報行動」 田崎篤郎・船津衛編 社会情報論の展開 北樹出版 1997

日弁連人権擁護委員会 「松本サリン事件」の捜査等に関わる人権救済申立事件（申立人 河野義行）調査委員会 1996年6月14日

クロネンウェッター・M 渡辺武達訳 「ジャーナリズムの倫理」 新紀元社 1993

<付表>

「松本サリン事件」関係新聞報道——見出し一覧——

<収集した新聞名>

【朝日新聞】	1994年6月28日～1995年12月31日
【朝日新聞 CD-ROM 版】	1994年6月28日～1995年12月31日
【毎日新聞】	1994年6月28日～1995年6月30日
【読売新聞】	1994年6月28日～1995年5月12日
【日本経済新聞】	1994年6月28日～1995年6月13日
【産経新聞】	1994年6月28日～1994年7月30日
【信濃毎日新聞】	1994年6月28日～1995年12月31日
【中央タイムス】	1994年6月28日～1995年12月31日
【福島民報】	1994年6月28日～1995年6月28日
【下野新聞】	1994年6月28日～1995年6月30日
【上毛新聞】	1994年6月28日～1995年6月30日
【埼玉新聞】	1994年6月28日～1995年7月25日
【神奈川新聞】	1994年6月28日～1995年12月31日
【福井新聞】	1994年6月28日～1995年10月31日
【西日本新聞】	1994年6月28日～1995年6月28日

○掲載の基準

新聞ごとに上記のような期間の松本サリン関係の記事を収集したが、本稿には紙数の関係で1995年6月30日までの見出しを掲載した。

以下に掲載する見出しの出所は、夕刊の場合を（夕刊）、号外を（号外）で記載してあり、記入がない場合は、朝刊を示す。なお、掲載紙面数は省略した。

1994. 6. 28(火)

- 【朝日新聞】「ナゾの有毒ガス 7人死亡 松本市の住宅街 農薬中毒に似る 52人収容 死者2階以上に 解放の窓ガラスからガス侵入？」(夕刊)
「原因は？ なぜ住宅地？ 有機リン系説強まる 専門家 激しい症状に疑問も」(夕刊)
「眠りの街 毒が覆った 松本市 湯船で布団で倒れる 半径70メートル 鳥や魚も患者殺到 病院は大混乱」(夕刊)
- 【毎日新聞】「有毒ガス 住民7人死ぬ 松本の住宅街 52人入院」(夕刊)
「有機リン？ 農薬中毒に似る」(夕刊) 「『何が原因』おびえる住民」(夕刊)
「専門家も首ひねる 『こんなケースは例がない』」(夕刊)
「深夜の街に死の刺激臭『目見えず激しい頭痛 半径50メートル イヌやハトも』」(夕刊)
- 【読売新聞】「有毒ガス 7人死ぬ 松本 有機リン系農薬か 中毒症状 52人治療中心部住宅街」(夕刊) 「突然襲った『正体不明ガス』なぜ 4階まで拡散 専門家も首ひねる」(夕刊) 「“佐久の奇病”と似る 学者指摘」(夕刊) 「大混乱、深夜の住宅街 松本・7人死亡 『早く助けて！』口から泡 蒸し暑い夜 開けた窓 ガス忍び込む」(夕刊)
- 【日本経済新聞】「見えぬ恐怖 住宅街襲う 松本で刺激性ガス流出」(夕刊) 「『まさか』住民に衝撃 眠れぬ夜 一帯に非常線」(夕刊) 「刺激性ガスで7人死亡 52人を病院に収容 松本市街」(夕刊) 「『何が原因……』募る不安 症状 有機リン系中毒 専門家 自然発生ガ

スに否定的」(夕刊) 「『目が痛い』『のどが……』半径20メートル以内に被害が集中」
 (夕刊) 「『吐き気やまぬ』病院で高校生」(夕刊)

【産経新聞】「有毒ガスで7人死亡 深夜の住宅街で刺激臭 52人入院 3人重症 有機リン系の薬物か 長野・松本」(夕刊) 「『目痛い 胸苦しい』半径100メートル内に集中 ハト 犬の死がい路上転々 松本の有毒ガス事故」(夕刊)

「人為的原因の恐れも浮上 考えられぬ自然発生 気道に炎症、神経侵す」(夕刊)

「鼻水でて意識遠のく 『農薬中毒に似ている』病院」

【信濃毎日新聞】「松本で住民20人異常訴え病院へ」

「松本で7人死亡 深夜 有害物質で中毒 約50人 病院に収容」(号外)

「住宅街 恐怖のどん底」(号外)

「松本で7人中毒死 住宅街に有害害物質 深夜52人手当て 3人重症」(夕刊)

「『有機リン中毒に似る』」(夕刊) 「見えぬ凶器 次々倒れ……単身赴任や学生 犠牲 県外出身の一人暮らし」(夕刊) 「揮発性高い物質か 階上窓を開け重い症状 専門家の見方」(夕刊) 「めまい・けいれん・瞳孔収縮 有機リン系ガス？」(夕刊) 「農薬原因説に否定的な見解 農業メーカー団体」(夕刊) 「『神経ガスの可能性高い』」(夕刊)

「住宅街 突然襲った恐怖 ぼう然 なすすべなく うつ伏せ 血を吐いて 松本」(夕刊) 「入浴中や就寝中……息苦しい」(夕刊)

【市民タイムス】「深夜、不明ガスで7人死亡」(号外) 「48人病院で手当て のどの痛みや刺激臭 有機リン酸系の中毒症状 松本市北深志の住宅街」(号外)

「『胸が苦しい』と第一報」(号外) 「市が緊急対策会議」(号外)

【西日本新聞】「ナゾのガス 7人死亡 有機リン系薬物か 半径100メートル52人が中毒症状 松本市の住宅街」(夕刊) 「恐怖の『霧』寝込み襲う 農薬か白アリ剤か 高い気温で拡散？ 患者血液酸素が激減」(夕刊) 「農薬原因説に業界は否定的 農薬工業会」(夕刊)

「『目が見えない』悲鳴 消防隊員『眠るな』 飼い犬 ハト 魚も犠牲 松本有毒ガス事故」(夕刊) 「『初めての症状』 医師も青ざめ」(夕刊)

1994. 6. 29(水)

【朝日新聞】「会社員宅から薬品押収 農薬調査に失敗か 松本のガス中毒」

「毒物と隣り合う暮らしの怖さ (社説)」

「ナゾ急転 隣人が関係 悲劇招いた除草剤作り？ 自ら通報 薬品会社に勤務歴」

「住民『これで眠れる』『断じて許せぬ』 遺族ら怒り」

「松本ガス中毒 押収薬品 青酸カリなど20種」 「雨の深夜不審な調剤 動機は？ 深まるナゾ松本の中毒症」 「素人の調査に危うさ 酸混入で出やすいガス」

【毎日新聞】「第一通報者宅を捜索」 「調査『間違えた』 救急隊に話す 薬品類を押収」

「第1通報から40分の空白 11時9分から48分まで 発生源特定の手掛かりに」

「『オレはもうダメだ』 座り込む会社員 症状訴え救急隊員に」 「以前から薬品に興味」

「市販の殺虫剤と除草剤 加熱で有毒ガス発生も」

「納戸に薬品二十数点 以前から収集か 重過失致死傷容疑 会社員を聴取へ 松本の中毒症」 「取り扱い免許所持 毒劇物」

【読売新聞】「通報の会社員宅捜索 薬品数点を押収 本人は入院中 除草剤調査ミスか 捜査本部 松本のガス中毒」 「住宅街の庭で薬物実験！？ 押収薬品『殺傷力ある』 会社員宅 被害地域の中心に位置 松本のガス事故」 「『あの家が……』 周辺住民あ然 原因わかり

安ど 事件の急展開に驚きも」 「夫婦ともに重傷 入院の会社員」 「通報の会社員を聴取 押収薬品、20点余松本の農薬中毒 有機溶剤の資格 聴取の会社員」

「『住民、一様に驚き』 松本市の農薬中毒」 「『なぜ住宅街で……』 不審がる住民ら」

【日本経済新聞】「死のガス まさかの発生源 本人 最初に119番 『胸苦しい』と家族と入院 松本」

「異常な毒性 残るナゾ 農薬の可能性薄い 青酸ガス発生の見方も」

「入院の会社員宅捜索 薬品数種類を押収 松本の有毒ガス惨事」

「押収薬物の分析急ぐ 県警 入手経路など追及 県警、入手経路などを追及」

「『なぜ 住宅街で……』 不安がる住民ら」

【産経新聞】「有毒ガスで7人死亡 通報者宅から薬品押収 松本」

「原因やはり人為的 関係者から事情聴取 住民ら不便な生活続く松本の集団ガス中毒事件」 「なぜこんなことを…… 押収薬品を解明へ」

「安全宣言に『ホッ』 入院患者ら快方へ 松本の『有毒ガス』事件」(夕刊)

「『警察の調べあるかも』 通報の会社員、家族に話す 有毒ガス事件」(夕刊)

「関与ほのめかす 会社員 『警察の調べ覚悟を 有毒ガス事件』(夕刊)

【信濃毎日新聞】「通報の会社員宅を捜索 薬品類数点を押収 松本の有毒ガス」 「病院内で事情を聴く

入院・治療は58人に」 「有毒ガス 微風で滞留か 『白い霧状』目撃証言も 種類・性質なお特定できず」 「惨事 なぜこんなことを 走る いい知れぬ衝撃 まさかの事件

真相は 松本の有毒ガス」 「数種類の農薬混合か 高熱でも有毒ガス発生」

「ザリガニ 庭木の変色……ガス発生源 断定 県警会見」 「全容把握 立ち遅れ 初期救助、避難誘導鈍く 危機管理のあり方課題 松本の有毒ガス」

「警官や消防署員も 3人が中毒症状 病院へ」 「集団ガス中毒の意外な展開(社説)」

「会社員 関与ほのめかす 松本の有毒ガス 家族に『覚悟して』薬品20点余 鑑定急ぐ 被害者75人に」(夕刊) 「何のため 薬物混合? 自宅で処理 化学反応 専門家の見

方 複数の薬品で発生か 松本の有毒ガス」(夕刊) 「死因特定至らず 3体の司法解剖終わる」 「原因特定へ捜査詰め 危険物扱う資格者 知識豊富な通報の会社員」(夕刊)

「病院 捜査員の出入り挙げしく 通報会社員の収容先」(夕刊)

【市民タイムス】「殺人容疑で会社員宅捜索 松本の住宅街で7人中毒死」

「のどの痛み刺激臭訴え 58人が病院で手当て」

「信じられない突然の悲報 単身赴任や学生犠牲に 松本の中毒事故」

「『安心して眠れない』 地域住民の不安募る」

「『救急車乗り合って』 対応に追われる6病院」

【福島民報】「有毒ガス 7人死亡 殺人容疑 近くの会社員から聴取 長野・松本」

「一転、殺人容疑に 全容解明には時間」

【下野新聞】「住宅街に有毒ガス7人死亡 近くの会社員を聴取 自宅庭で除草剤作る」

「『目が見えない』女性悲鳴 深夜、有毒ガスの恐怖 松本」

「農薬中毒特有の症状 霧状で窓から流れ込む?」

【上毛新聞】「除草剤を製造? 猛毒ガス7人死亡 松本」 「重軽傷58人 殺人容疑で会社員聴取」

「前橋出身の男性も犠牲」

「悲鳴『目が見えない』 地面に恐怖の霧 深夜の住宅街パニック 松本の毒ガス」

【埼玉新聞】「隣接の会社員宅捜索 7人死亡長野のガス事故 薬品押収し聴取」

【神奈川新聞】「有毒ガスで7人死亡 会社員宅で薬品類押収 長野県松本市」

「殺人容疑で現場近くの同市北深志 会社員(44)の自宅を捜索、薬品類を押収した」

- 「対面 泣き崩れる遺族 去らぬ恐怖 不安な夜 長野・松本の有毒ガス事故」
- 【福井新聞】「眠りの街 死の霧襲う 松本・7人死亡」 「頭痛、もがき倒れる 半径100メートル ハト 犬も」 「捜査急展開、なお恐怖」 「有毒ガス発生 7人死亡 殺人容疑で社員捜索 薬品類を押収」 「松本、深夜の住宅街 58人が重軽症」
- 【西日本新聞】「ナゾ急転 まさかの隣家 風上の庭先で発生 社員 最初に一一九番通報」 「数種の農薬混ぜる？ 有毒ガス 高熱、水分にも反応」 「殺人容疑で民家捜索 社員薬品混ぜ除草剤作る 有毒ガス事件」 「社員を聴取へ 薬品の鑑定急ぐ 長野県警が自宅再捜索 松本の有毒ガス」

1994. 6. 30(木)

- 【朝日新聞】「有毒ガスゆっくり移動 濃度高まり被害拡大？ 松本」 「兵器なみの神経ガスか 化合で発生の恐れ 青酸カリと有機リン系農薬」 「調合ミスで発生 長野県警 見方固める 松本市の有毒ガス」(夕刊)
- 【毎日新聞】「怪奇な事件の恐ろしい背景」 「社員から聴取開始 『敷地から白い煙』の証言 松本の中毒死」 「樹木に薬品、効き目なく 『自分で希釈中ガス』 松本の中毒死社員が供述」
- 【読売新聞】「池から高濃度リン化合物 社員宅 シアン系は検出されず 松本の有毒ガス」 「事故当夜『甘い匂い』 猛毒『塩化カルボニル』か 松本の有毒ガス」(夕刊)
- 【日本経済新聞】「社員から事情聴取 自宅の植木、変色広がる 松本の中毒死」 「『退院、見通し立たず』 社員の主治医」
- 【産経新聞】「松本の毒ガス死の恐ろしさ(主張)」 「有機リンと断定 松本の有毒ガス」(夕刊)
- 【信濃毎日新聞】「機器や容器 無造作に 通報の社員宅捜査 池周辺 草木が黄変 松本の有毒ガス」 「水質調べで池に魚放流 社員宅」 「『白い煙が来た』社員が上司に話す」 「押収物に漬物おけ 白い煙 複数の証言松本の有毒ガス事件」(夕刊) 「入院患者回復傾向 視覚障害なお訴え」(夕刊)
- 【市民タイムス】「社員の快復待ち事情聴取 押収薬品 瓶入り20本に 入手目的など特定急ぐ」 「入院患者ら順調に快復」 「被害者は75人に 一人が依然意識不明 有毒ガス死亡事故」 「広範囲の被害者 なぞ深まる有毒ガス 『単体薬品では考えにくい』」 「予想外の展開に戸惑い 第一通報者を知る人々」 「第一通報者の妻を救出 西尾弘行さん 被害に遭いながらも心臓そ生」 「発生場所わかったが…… 現場周辺は依然騒然 事故の重大さに驚き 終日住民へ取材攻撃」 「学校の授業にも影響」
- 【福島民報】「入院中の社員を聴取 『自分は被害者』と供述 松本の有毒ガス事故」
- 【下野新聞】「社員宅を再捜査 薬品入手経路追及 松本の有毒ガス事故」
- 【上毛新聞】「薬品調査に失敗？ 社員宅で20種押収 調べに『自分は被害者』松本の有毒ガス」 「治らない瞳孔収縮」
- 【埼玉新聞】「薬品の入手経路捜査 病院で社員を聴取 松本の有毒ガス事故」
- 【神奈川新聞】「入院先で社員聴取 薬品類の入手先など追及 有毒ガス事故」
- 【福井新聞】「社員『私は被害者』 薬品入手経路を追及 松本・有毒ガス事故」

1994. 7. 1(金)

- 【朝日新聞】「ケムシ駆除が目的の可能性 松本の有毒ガス事件」

「神経ガスに類似か 松本市の中毒死亡事件で専門家指摘」

- 【毎日新聞】『有機リン系』と断定 会社員23種類も薬品所持 松本の中毒死」
- 【読売新聞】「白い霧 4時間前から 住民『直後気分悪くなった』 松本の有毒ガス事件」
「『白い霧』目撃時刻は勘違い 有毒ガス事件」(夕刊)
- 【日本経済新聞】「有機リン系農薬やシアンなど検出せず 松本有毒ガス事故現場」
「『薬の調合していない』入院の会社員 入手経路 口閉ざす 松本の中毒死」
- 【産経新聞】「有機リン系と断定 松本の有毒ガス 長時間かけ徐々に？」
- 【信濃毎日新聞】「一報4時間前『白い煙』 会社員宅の庭 目撃 開智ハイツの信大生」
「直接関与を全面否定 弁護士に会社員 松本の有毒ガス」
「有害物質検出されず 池の水や大気検査 けん衛生研と松本保健所」
「検証見えない凶器（1） 深夜のパニック」
「有害物質検出されず 池の水や大気検査 県衛公研と松本保健所」
- 【市民タイムス】「薬物扱う器具押収 会社員から事情聴取 松本の有毒ガス事故」
「民家の池の水 空気 周辺水路 汚染物質の検出なし 松本の有毒ガス事故」
「アパートに戻る人も 現場検証終了」
- 【福島民報】「通報4時間前に白煙 近くの学生が目撃 直後に意識不明 松本の有毒ガス事故」
- 【下野新聞】「通報4時間前に白煙 近くの学生目撃 意識不明」
- 【上毛新聞】「通報4時間前に白煙 松本の有毒ガス 近くの学生が目撃」
1994. 7. 2(土)
- 【朝日新聞】「週明けにも本格的聴取 松本の中毒事件」
- 【毎日新聞】「会社員『私も被害者』 松本の中毒死」
- 【読売新聞】「有機リン系中毒と断定 会社員再び関与否定 松本の有毒ガス」
- 【日本経済新聞】「『入院の会社員、関与否定』 松本の中毒死弁護士が会見」
「植物の葉の変色池から東に拡大 松本の中毒死」
- 【産経新聞】「『毒物は投げ込まれた』 会社員関与を否定」
- 【信濃毎日新聞】「押収物にフロン系物質 有機リン酸系殺虫剤と反応 毒性強いガス発生？ 被害者86人に 松本の有毒ガス」
「薬物は写真現像用 隠すこと何もない 会社員 弁護士通じ説明」
「正体不明のガス 勘を頼り 手探りの治療 検証見えない凶器（2）」
「池の泥などを採集 樹木の変色広がる 松本の有毒ガス事件」(夕刊)
- 【市民タイムス】「『身の潔白晴らしたい』 会社員 関与を否定 松本の有毒ガス事故」
「薬品の調合していない 会社員の話しぶりはっきりと 弁護士会見」
「死傷者増え86人に 『早めの健康診断を』 松本市が呼びかけ」
- 【福島民報】「『薬の調合していない』 会社員 関与を否定 松本の有毒ガス事故」
- 【下野新聞】「『薬の調合していない』 会社員 関与を否定 松本の有毒ガス事故」
- 【上毛新聞】「神経毒ガスの仲間？松本の事故原因物質 毒性、青酸の500倍も」
「『疑われ、心外』 捜査を受けた会社員」 「庭から調理用具押収 捜査本部」
- 【埼玉新聞】「患者に複合的症状 シアン系を調合か 長野の有毒ガス事故」
- 【神奈川新聞】「『薬の調合はしていない』 聴取に対し会社員 有毒ガス事故」
- 【福井新聞】「身近な所に潜む薬物危険性（論説）：犯人と思われる会社員は、……」

1993. 7. 3(日)

- 【読売新聞】「押収薬品に『有機リン系』農作物の害虫駆除剤 松本の有毒ガス」
 【日本経済新聞】「被害者は212人に 松本の中毒死」
 【信濃毎日新聞】「『有毒ガス』特定は難航 目撃 臭い証言まちまち 松本の現場 消えぬ不安 被害者は212人に」 「検査試料反応無し 捜査陣にも苦渋の色 検証見えない凶器(3)」
 【市民タイムス】「池の底の泥も採取 樹木の変色 住宅東側にも及ぶ 松本の有毒ガス事故」
 「5日経過 肝心な点依然不明 有毒ガス事故 被疑者不詳——消えぬ不安」
 【福島民報】「被害者212人に 松本の有毒ガス事故」
 【上毛新聞】「被害者212人に 松本のガス事故 多い会社員宅から北東」
 【埼玉新聞】「長野の有毒ガス事故 被害者は212人」
 【神奈川新聞】「被害者は212人にも 松本の有毒ガス事故」

1994. 7. 4(月)

- 【朝日新聞】「神経ガス『サリン』検出 会社員宅の池などで 松本の中毒事件」
 「分析結果から推定 県警発表」 「『だれが なぜ』憤り新た 患者ら『安心できない』」
 「『特效薬はない』 複合中毒の可能性も 病院関係者ら」
 「サリン生成の可能性分析 松本の毒ガス事件で長野県警捜査本部」(夕刊)
 【毎日新聞】「神経ガス『サリン』とほぼ断定 毒性、青酸カリの500倍」 「サリン 身近に化学兵器 『日常の物質で製造可能』 専門家偶発的発生も 『なぜ』怒る住民」
 【読売新聞】「神経ガス『サリン』検出 押収品に触媒物質 捜査本部死因断定 入院会社員聴取へ」
 松本の中毒事件
 「ナチが開発 毒ガス『サリン』 松本の集団被害 市民に大きな衝撃 専門家が分析 『偶発とは考えにくい』 『素人でも製造できる』」
 「その夜はテレビを見ていた 農薬は絶対使っていない 会社員語る 今も27人入院中」
 【日本経済新聞】「神経ガス『サリン』検出 会社員宅の池から 人為的に発生、症状と一致」
 「『調合していない』 会社員改めて否定」
 「通報までの2時間 記憶があいまい 有毒ガス事件で会社員」
 【産経新聞】「青酸カリの500倍 2ミリグラム付着で死亡 何か目的あったのか」
 「神経ガス『サリン』と推定 会社員宅の池などから検出 解剖結果と合致」
 【信濃毎日新聞】「無毒ガス『サリン』と推定 化学兵器の神経剤 会社員宅などで検出 松本の中毒で捜査本部」 「大量殺りく用の『兵器』 市販物質で化合可能 調合ミスか意図的製造か 専門家の見方」 「衝撃 死のガス『サリン』 住宅街に……再び恐怖 一時帰宅もマスク着け 松本の中毒事件」 「薬物 『推定』揺れた判断」
 「『薬品使っていない』 会社員が肉声テープ 弁護士を通じ公開」
 「祭り・催し自粛の動き 犠牲者出た町会や信大」(夕刊)
 「ガス発生メカニズム解明に全力 捜査本部」(夕刊)
 【市民タイムス】「猛毒ガス検出『サリン』と断定」 「池の水などから 3遺体 有機リン系の中毒死 松本の有毒ガス事故」 「人為的に調合? 特定急ぐ」
 【福島民報】「原因物質は『サリン』化学兵器用の神経ガス 松本の有毒ガス事故」
 「イラン・イラク戦争で使用 毒性、青酸カリの500倍」
 【下野新聞】「猛毒の『サリン』検出 化学兵器用神経ガス 会社員の池などから 松本の有毒ガス事故」 「原料入手は容易 毒ガスサリン」

- 【上毛新聞】「猛毒『サリン』を検出 化学兵器に使用される神経ガス 松本のガス事故」
 「『なぜ』驚く住民」 「関与を否定 入院中の会社員」
- 【埼玉新聞】「神経ガス『サリン』検出 重過失致死の疑いも 会社員宅池から 松本の有毒ガス事故」
- 【神奈川新聞】「神経ガス『サリン』検出 会社員宅の池などの水 化学兵器用の猛毒 原料は入手可能」
- 【福井新聞】「神経ガス『サリン』検出 池など4カ所で『調査ミス』県警捜査 松本・有毒ガス事故」
 「重ねて関与否定 肉声テープ会社員公開」
- 【西日本新聞】「2時間の記憶あいまい 通報の会社員 押収物鑑定を急ぐ 毒ガス事件」
 「猛毒『サリン』を検出 化学兵器などに使用の神経ガス 会社員は関与否定 松本の有毒ガス中毒」

1994. 7. 5(火)

- 【朝日新聞】「医療関係者が治療の研究会開く 松本のガス中毒事件」
- 【毎日新聞】「捜査阻む猛毒ガス サリン 危険で『再現』不可能」
- 【読売新聞】「捜査阻むも毒ガス サリン 危険で『再現』不可能」
- 【日本経済新聞】「薬品の混合・併用に注意（社説）」
 「サリン 不純物混入か 化学反応過程の究明急ぐ 松本の中毒死」
- 【産経新聞】「松本の『有毒ガス』サリン発生 『農薬混合』を否定」
- 【信濃毎日新聞】「サリン濃度高い南の池 北側と数倍以上の差 県衛生公研解析 発生場所手掛かりに 松本の中毒死」
 「生成過程は未解明 各省も対応に苦慮」 「化学捜査のチーム発足 松本の中毒」(夕刊)
- 【市民タイムス】「サリン検出 “化学兵器、にも……青ざめる住民” 「『だれが なぜ……』 捜査本部 池周辺の検証 入念に」 「正体わかりほっと 治療中の病院医師」
 「関連を強く否定 会社員の肉声テープを公開」
 「サリン 毒性は青酸カリの500倍 ナチス開発の神経ガス」
- 【福島民報】「サリンは不純物入り？ 医師ら連絡会議設置 有毒ガス事件」
 「毒ガス事件で考えたこと（こだま 投稿）」
- 【下野新聞】「サリン“不完全”発生 不純物が混入した状態か」
- 【上毛新聞】「無臭のはずが刺激臭 不完全サリン発生？ 松本の有毒ガス事件」
 「2時間の記憶薄い 通報した会社員」
- 【埼玉新聞】「不純物混入のサリンか 発生過程の究明に全力 松本の有毒ガス事故」
- 【神奈川新聞】「不純物混入のサリン発生？ 松本の有毒ガス事件」
- 【福井新聞】「『サリン』に不純物？ 無臭のはずが刺激臭 松本有毒ガス事件」

1994. 7. 6(水)

- 【朝日新聞】「サリン 駐車場でも検出 会社員宅と隣接 松本」
- 【毎日新聞】「きょうから本格聴取 会社員から 松本の中毒死」
- 【読売新聞】「きょうから本格聴取 『サリン』最大1リットルと推定有毒ガスで会社員」
 「フッ素化合物発見されず 松本の会社員宅」(夕刊)
- 【日本経済新聞】「松本の毒ガス記事 『北朝鮮差別助長』長野県評センター週刊朝日に抗議文（週刊朝日 7月5日発売「北朝鮮の秘蔵の化学兵器庭先でできちゃった！？」） 「会社員宅に隣接する駐車場からもサリン 松本の有毒ガス」 「松本の有毒ガス 被害者220人に」
- 【信濃毎日新聞】「きょうから本格聴取 会社員 参考人で 松本の有毒ガス事件」

- 「駐車場からもサリン 池の南側 土から検出 松本の有毒ガス」(夕刊)
【市民タイムス】「会社員宅の検証終了 捜査本部 化学の専門チーム設置 松本の有毒ガス事故」
【下野新聞】「被害者220人に 松本の有毒ガス事故」
 「有毒ガス事件『北』とは無関係 朝日新聞社に抗議 長野県評センター」
【上毛新聞】「立ち合いなしで会社員聴取へ 松本の有毒ガス事件」
【神奈川新聞】「松本の有毒ガス 被害者は220人」

1994. 7. 7(木)

- 【朝日新聞】**「毒ガスの発生は10時45分ごろ 松本の大量中毒事件」
【毎日新聞】「土からもサリン 松本毒ガス会社員宅」
【日本経済新聞】「会社員聴取 見送り 松本の有毒ガス」
 「発生時刻 依然絞れず 松本の有毒ガス」(夕刊)
【産経新聞】「発生源のナゾ 変わる証言のナゾ」 「マンション住民相次ぐ転居 被害者は220人に」
 「深まるナゾ 広がる波紋」
【市民タイムス】「駐車場からも『サリン』 捜査本部 押収資料の検討へ 松本の有毒ガス事故」
【信濃毎日新聞】「会社員聴取 見送り 松本の有毒ガス」
 「発生時刻 依然絞れず 松本の有毒ガス」(夕刊)
 「事情聴取の有無明らかにせず」 「会社員宅に無言電話」
【下野新聞】「フッ素化合物の捜索急ぐ 会社員の聴取は延期 松本の有毒ガス事件」
【上毛新聞】「会社員の聴取延期 長野の有毒ガス事件」
【神奈川新聞】「国内の製造販売は54本 『サリン』の原料薬品」

1994. 7. 8(金)

- 【朝日新聞】**「『薬品、京都の社長から入手』 松本の有毒ガス事件で会社員」
 「毒ガスの恐怖 今も消えず 退院しても後遺症」(夕刊)
 「『夜、窓あけられぬ』 引っ越しの準備も」
【毎日新聞】「発生から10日深まるナゾ 会社員聴取 カギに 松本のガス死 会社員『薬品は前の会社で譲り受けた』」
【読売新聞】「サリン 深まるナゾ 会社員と器材発見がカギ 松本の有毒ガス」
【日本経済新聞】「入院の会社員再び関与否定 有毒ガス」
【産経新聞】「『毒ガス製造知識はない』 会社員弁護士と面会」
【信濃毎日新聞】「サリン 農薬から生成困難 薬品調査も複雑 だれが……深まるナゾ 松本の中毒」
 「関与 重ねて否定 毒ガス知識『全くない』 弁護士に会社員」
 「押収品に工業用フロンや注射器 会社員宅」
 「ガス発生場所や時刻特定に全力 松本の中毒事件」(夕刊)
【市民タイムス】「真相究明は“長期戦、の様相 有毒ガス事故から10日」
 「関与あらためて否定 弁護士との面会で会社員」
【下野新聞】「『毒ガス製造知識ない』 会社員 再び関与否定 松本の有毒ガス事件」
【上毛新聞】「『製造方法の知識はない』 有毒ガス事件の会社員」
【福井新聞】「毒ガス製造の知識、興味ない 会社員再び関与否定」

1994. 7. 9(土)

【読売新聞】「市販薬で簡単に発生 副生成物検出で判明 サリン」

【信濃毎日新聞】「会社員宅周辺の数カ所強制捜査 松本の中毒事件」(夕刊)

【市民タイムス】「サリン合成 試薬があれば可能 有毒ガス事故」

「偶発性極めて低い 信州大 加藤 入江教授が見解 農薬からはまずできない」

1994. 7. 10(日)

【信濃毎日新聞】「サリンが生まれる前段階の化合物か 現場の池周辺で検出 松本の有毒ガス事件」

【市民タイムス】「有毒ガス事故 不安 いらだちの被害地」

「『安全の保証がない』 死者の出たマンション 相次ぐ引っ越し」

1994. 7. 11(月)

【朝日新聞】「押収した薬品24種類 サリンの合成不可能 専門家らの見解一致 松本の毒ガス」(夕刊)

【産経新聞】「サリン材料を特定 完成手前の市販薬 『製造過程で刺激臭』」(夕刊)

1994. 7. 12(火)

【朝日新聞】「サリン発生 深まるナゾ だれが?どのように? 松本のガス中毒」

「『農薬調合』で合成困難 器具や容器も痕跡なし」

「サリン再現なんて危なくて…… どこで実証 県警困惑松本の中毒毒ガス事件」(夕刊)

【毎日新聞】「サリン 南の池付近で発生 捜査本部が断定 松本のガス死」

【産経新聞】「サリン材料特定 完成品直前の市販薬使う？」

【信濃毎日新聞】「サリン 中間物質から生成 有力視 流通ルートを検査 松本の有毒ガス」

「会社員の退院今週末以降に 発熱など変調」

【市民タイムス】「深まるサリン生成のなぞ 松本の有毒ガス事故」

「試薬用いた可能性大 有毒ガス事故のサリン発生で 捜査本部」

【福島民報】「簡単なサリン製造法が浮上 輸出規制物質材料に 押収の薬品では不可能 松本の有毒ガス事件」

1994. 7. 13(水)

【朝日新聞】「合成容易な試薬追跡 国内流通、規制なし サリン 長野県警」(夕刊)

【毎日新聞】「サリン生成で副産物 草や木枯れる原因に」

【読売新聞】「サリン合成薬特定 全国で販売40本余 有毒ガス事件」

【日本経済新聞】「『サリン』原料は特殊試薬? 国内販売 わずか54本 松本の有毒ガス」

【産経新聞】「サリン『材料』を特定 製造1社のみ 約50本流通」(夕刊)

【信濃毎日新聞】「外国試薬の流通も焦点 サリン合成 中間物質 購入者の割り出し急ぐ」

「頭痛 続く病院通い 騒ぎ嫌気 相次ぐ引っ越し」

【市民タイムス】「サリン生成に用いた試薬 極めて特殊な物 有毒ガス事故」

1994. 7. 14(木)

【毎日新聞】「サリン合成簡単な試薬 都内の会社 50本を販売」

【産経新聞】「サリン『材料』約50本流通 購入者の特定急ぐ」

- 【福 島 民 報】『「サリン原料」国内に54本 購入者の特定急ぐ 松本の有毒ガス事件』
 【信濃毎日新聞】「外国試薬の流通も焦点 サリン合成 中間物質 購入者の割り出し急ぐ 松本の有毒ガス事件」 「頭痛 続く病院通い 騒ぎ嫌気 相次ぐ引越し」
 【市民タイムス】「住民の不安解消へ症状把握 有毒ガス事故で市対策本部 健康診断 アンケート実施へ」 「サリン 有機溶媒に溶かしてあれば 大気流出遅らせることも 有毒ガス事故」 「サリン合成の謎」
 【下 野 新 聞】「サリン原料 54本販売 購入者特定急ぐ 松本の有毒ガス事件」
 【上 毛 新 聞】「国内販売は54本のみ 神経ガス『サリン』の原料」
 【福 井 新 聞】「国内で54本製造 サリン原料薬品 購入者特定急ぐ 長野県警」

1994. 7. 15(金)

- 【朝 日 新 聞】「サリン生成のフッ素化合物 販売ルートの特定に全力 ガス中毒死 捜査本部」
 【毎 日 新 聞】「引越し20世帯 松本 今も毒ガス後遺症」
 【読 売 新 聞】「薬剤使用ほのめかす 事件直後に会社員 退院待ち 近く聴取へ 松本の有毒ガス」 (夕刊)
 【日本経済新聞】「松本で健康説明会 毒ガス 不安解消へ」
 【産 経 新 聞】「サリン生成の有機化合物 長野県外から調達？」 「守秘義務と治療第一に 有毒ガス事故で協立病院の対応」 「試薬の販売ルート解明を急ぐ 捜査本部」
 【上 毛 新 聞】「後遺症の不安解消 市が市民に説明会 松本の有毒ガス事件」

1994. 7. 16(土)

- 【毎 日 新 聞】「国内の有機リン系試薬 40本、販売ルート判明松本のガス死」
 【日本経済新聞】「入院中の会社員改めて関与否定 松本有毒ガス」
 【市民タイムス】「比較的簡単にできる試薬も サリン発生 加藤信大教授が見解」 「後遺症など調べる上でも 健診 アンケート協力を 被災地区で説明会」 「一日も早い解決を—— 有毒ガス事件で市民の声」
 【上 毛 新 聞】「サリンの分子モデル公開 松本で 信州大学教授」

1994. 7. 17(日)

- 【市民タイムス】「報道も人権尊重」
 【福 島 民 報】『「警察の調べあるかも……」 弁護士が報道否定 松本の有毒ガス事件』
 【下 野 新 聞】「えん罪と報道に抗議 会社員の弁護士が会見 松本の有毒ガス事件」
 【上 毛 新 聞】「一部の報道を強く否定 有毒ガス事件で弁護士」
 【福 井 新 聞】『「えん罪の構造」 一部報道に抗議 有毒ガス事件で弁護士』

1994. 7. 18(月)

- 【信濃毎日新聞】「松本の有毒ガス発生から3週間 会社員 無関係訴え独自検証 異例の展開 戸惑い 薬品ルートも手詰まり」
 【産 経 新 聞】「解明阻むサリンの謎 犯人は多量購入者？ 『動機』めぐり地道な捜査も」

1994. 7. 20(水)

- 【朝 日 新 聞】「医療専門家設置決める 有毒ガスで事件で担当医」

- 【産経新聞】「看護婦にも中毒症状 10人 患者の残留ガスで」
【信濃毎日新聞】「サリン中毒で専門委 後遺症心配 治療連携へ 松本の医師ら」
「150人健康診断希望 現場周辺住民アンケート」
【市民タイムス】「住民の不安浮き彫り 有毒ガス事件でアンケート結果 健診希望者150人に」
【下野新聞】「住民2千人に市が被害調査 松本の有毒ガス事件」
【上毛新聞】「医療専門委の設置決める 松本の毒ガス事件で担当医ら」

1994. 7. 21(木)

- 【市民タイムス】「医療専門委を発足へ サリン中毒 後遺症などを調査」
「駐車場などから新たに土を採取 有毒ガス事件」

1994. 7. 23(土)

- 【朝日新聞】「会社員から病院で聴取 長野県警 ガス中毒死事件」
「周辺の住民を松本市が健診 ガス中毒死事件」
【毎日新聞】「第一通報者から本格聴取 松本のガス死事件」
【日本経済新聞】「会社員を参考人聴取 松本有毒ガス」
「周辺の住民に無料健康診断 有毒ガス事件の松本市」
【市民タイムス】「第一通報者から事情聴取 数十分間 内容は明らかにせず 有毒ガス事件」
【福島民報】「会社員から2週間ぶり聴取 松本の有毒ガス事件」
【上毛新聞】「会社員から2週間ぶり聴取 松本の有毒ガス事件」

1994. 7. 24(日)

- 【朝日新聞】「中毒の男性再入院 松本の毒ガス」
【信濃毎日新聞】「3時間近く事情聴取 会社員の病室で 松本のガス事件」
【市民タイムス】「『後遺症が心配』 有毒ガス事件 住民の健康診断始まる 150人が希望」
「引き続き第一通報者から事情聴取」
【福島民報】「希望者に無料健康診断 松本の有毒ガス事件」

1994. 7. 25(月)

- 【朝日新聞】「犯罪の変容に機敏な警察を（社説）」

1994. 7. 26(火)

- 【市民タイムス】「進展少なく依然残るなぞ 有毒ガス事件から1カ月」
「捜査 会社員の聴取再会 治療 後遺症の不安続く 現場 寮は全世帯転居へ」

1994. 7. 27(水)

- 【朝日新聞】「サリンは10グラム程度 10分弱で200メートル到達 電算機で試算 松本毒ガス事件」
【日本経済新聞】「サリン原料 大量入手困難 発生1カ月 住民の不安消えず 松本の有毒ガス」
【産経新聞】「『サリン』依然闇の中 社員寮 転居続出……ついに無人」
【信濃毎日新聞】「第一通報者 今週退院へ 松本の有毒ガス」

1994. 7. 28(木) ————— 松本の有毒ガス事件から1カ月 —————

- 【毎日新聞】「別の薬剤 捜査対象に サリン『試薬』の材料 松本のガス死」
- 【福島民報】「サリン捜査 長期化の様相」
- 【下野新聞】「“化学兵器”に苦悩 捜査本部 販売経路から手掛かりなし 捜査本部」
- 【上毛新聞】「原料入手解明できず 退院待ち会社員聴取」
- 【福井新聞】「捜査 長期化か 販売経路手掛かりない だれが何のために “会社員は”依然入院」
- 【西日本新聞】「薬品五四本不信な販売先なし 捜査の網 海外も サリンルート袋小路」

1994. 7. 30(土)

- 【朝日新聞】「第一通報者の会社員退院へ 松本ガス中毒」
「改めて関与を否定 通報した会社員 退院し会見 松本毒ガス」(夕刊)
「『サリンの名前 初めて知った』 松本ガス中毒第一通報者会見」(夕刊)
- 【毎日新聞】「『サリン 知らなかった』 渦中の会社員が退院 会見 関与否定『解明には協力』 参考人で聴取 松本の中毒事件」
- 【読売新聞】「会社員退院、『潔白』と会見 捜査本部 任意出頭を求め聴取 有毒ガス事件」(夕刊)
「サリン知らなかった 一問一答」(夕刊)
- 【日本経済新聞】「『サリン全く知らない』 松本の有毒ガス事件 通報の会社員会見」
「関与改めて否定 『容疑者扱い、憤り覚える』」
「県警が参考人聴取 ——退院後の記者会見を終え 事情聴取のために松本署に入る第一通報者の会社員(写真：後ろ姿)」「長い療養、顔青ざめ けん騒の中、会社員退院」
- 【産経新聞】「会社員 きょうにも退院 出頭求め本格聴取へ」
「『事件とは無関係』 事実解明へ捜査協力 『サリン知識ない』」(夕刊)
「『捜査の転機』と重要視 発生当時の現場再現へ」(夕刊)
- 【信濃毎日新聞】「究明へ本格聴取 第一通報者きょう退院 松本の有毒ガス」
「『サリン知らなかった』 会見で関与を否定 松本の有毒ガス 通報の会社員が退院」(夕刊)
「捜査本部で聴取に応じる『調べ きちり』声強く『解明には全面的に協力』」(夕刊) 「会社員の会見 疑い『憤りを感じる』」
- 【市民タイムス】「サリン記述の『みどりの刺青』 貸し出し保留に 松本市中央図書館」
- 【福島民報】「会社員 きょうにも退院 本格的事情聴取へ 松本の有毒ガス事件」

1994. 7. 31(日)

- 【朝日新聞】「会社員の聴取 『今後も継続』 松本のガス中毒」
- 【毎日新聞】「会社員の聴取引き続き行う 松本の中毒・捜査本部」
- 【日本経済新聞】「事情聴取りきょうも 有毒ガス事件で会社員に 現場状況詳しく」
- 【市民タイムス】「事件への関与 強く否定 第一通報者が退院・会見 任意出頭で事情聴取も 松本の有毒ガス事件」
「『事実検証十分に』 落ち着いた口調で」「有毒ガス事件 第一通報者 会見要旨」 「農業調査『一切ありません』 サリン『どんなものかわからない』」
「100人を超す報道陣 病院騒然 退院の会社員 “追跡劇、も」
- 【福島民報】「『どこに怒りを……サリンなんて知らない』 会社員が会見」
- 【下野新聞】「サリン製造法知らない 通報会社員が退院 会見 かかわり全面否定 松本の有毒ガス事件」
「捜査本部が7時間聴取 どこに怒りをぶつければ…… 入院生活顔色白く『無関係』ときっぱり」

- 【上毛新聞】『「サリンなど知らない」第一通報者が会見 事件への関与を否定 松本の有毒ガス事件』 「どこに怒りぶつけたら…… マスコミの報道にも苦言」
- 【埼玉新聞】「事件関与を全面否定 第一通報者が会見 長野県松本市有毒ガス事件」
- 【神奈川新聞】「事件関与を全面否定『サリン聞いたことがない』第一通報者が会見 松本の有毒ガス」
- 【福井新聞】「関与を全面否定 第一通報の会社員 退院 記者会見 松本・有毒ガス事件」
『「サリン知らぬ」 捜査本部 7時間余り聴取 自宅の捜索に反発も」

1994. 8. 1(月)

- 【毎日新聞】「会社員から連日の聴取 松本のガス事件」
「ナゾ解けぬまま1カ月 サリン 販売ルート捜査進まず」
- 【読売新聞】「引き続き事情聴取 松本集団ガス中毒」
- 【日本経済新聞】「第一通報者の会社員 連日の7時間聴取 松本の有毒ガス事件」
「会社員きょうも聴取 ガス中毒で捜査本部方針」(夕刊)
- 【信濃毎日新聞】『「核に匹敵する薬開発」 中年のタクシー男性客 スナックで同様の発言も 松本の有毒ガス』 「会社員を7時間近く聴取 体調悪化訴える」
- 【福島民報】「第一通報者の聴取続く 松本の有毒ガス事件」
- 【上毛新聞】「第一通報者の聴取続く 松本市の有毒ガス事件」

1994. 8. 2(火)

- 【朝日新聞】『「実名」「匿名」判断分かれる 松本のガス中毒報道』 「会社員会見後3紙が実名に『本人の意思』実名転換の社 『人権に配慮』匿名継続の社」
- 【日本経済新聞】「第一通報の会社員 疲労訴え聴取中止 松本有毒ガス事件」
- 【市民タイムス】「第一通報者の体調悪化 長時間聴取で 弁護士強く抗議 有毒ガス事件」
「有毒ガス事件発生1カ月 市の対策本部が解散」
「戻りつつある痛慈雨生活 不安など 健康相談窓口で」

1994. 8. 3(水)

- 【毎日新聞】「2日連続 会社員聴取を見送り 松本・ガス中毒事件」
- 【信濃毎日新聞】「会社員体調崩し事情聴取できず 松本の有毒ガス事件」
- 【市民タイムス】「事実の究明は難航」 「会社員の体調悪く 事情聴取できず 有毒ガス事件」
- 【上毛新聞】「会社員聴取を見送り 松本の有毒ガス事件」

1994. 8. 4(木)

- 【朝日新聞】「医療関係者ら専門委を設置 松本毒ガス事件」
- 【毎日新聞】「会社員からの聴取当分見送り 松本・中毒事件」
- 【読売新聞】「聴取 当面見送り 体調の回復を待つ 松本の集団ガス中毒」
- 【市民タイムス】「会社員の体調考慮 事情聴取先送り 有毒ガス事件」

1994. 8. 5(金)

- 【市民タイムス】「事情聴取当分見送り 捜査本部 会社員の体調快復まで 有毒ガス事件」
- 【上毛新聞】「体調悪く当分聴取見合わせ 有毒ガス事件で会社員」

1994. 8. 8(月)

【福島民報】「サリン登場小説 お貸しできません 『まねされたら……』松本市立図書館」

【下野新聞】「サリン小説貸しません まね困る 過剰反応 松本市立図書館」

1994. 8. 9(火)

【毎日新聞】「聞き込み終え捜索態勢縮小 松本毒ガス事件」

【上毛新聞】「捜査態勢を縮小」

1994. 8. 14(月)

【市民タイムス】「口そろえ『真相解明を』 あす49日 犠牲者7人 遺族の悲しみ深く 有毒ガス事件」

「『みどりの刺青』貸し出し 松本市図書館が再開」

1994. 8. 17(水)

【信濃毎日新聞】「少ない物証 苦悩 解けない『方程式』 長期化する松本のガス事件(上)」

1994. 5. 18(木)

【信濃毎日新聞】「見えない動機 犯人と被害者 結べぬ糸 長期化する松本のガス事件(下)」

1994. 8. 19(金)

【朝日新聞】「サリン 依然ナゾ・なぞ 松本の中毒事件から約50日 だれが どうやって 会社員聴取 中断のまま 6500人から聞き込み／化学専攻者集め捜査班(時時刻刻)」

1994. 8. 20(土)

【市民タイムス】「真相不明 つのる不安 有毒ガス事件」

「相次ぐ転出 空き部屋増 現場周辺マンション 悲嘆にくれる管理者」

1994. 8. 22(月)

【読売新聞】「光見えず“無念の夏” 松本の『サリン事件』から2か月 まるで神隠し／犯人特定できず申し訳ない」

1994. 8. 25(木)

【毎日新聞】「市販5薬品も使う？ 捜査本部解明 『5段階で合成可能』 サリン」

1994. 8. 26(金)

【市民タイムス】「解けぬ謎<上> 有毒ガス発生2か月 『サリン』が捜査の“障壁、」

1994. 8. 27(土)

【市民タイムス】「解けぬ謎<中> 有毒ガス発生2か月 第一通報者への事情聴取でも真相は聞」

【福島民報】「サリン生成のなぞ解明へ全力 発生から2か月 捜査は長期化？」

1994. 8. 28(日)

【信濃毎日新聞】「サリン 捜査対象薬品を拡大 『2工程より前』に傾く 捜査本部 複数の生成方法想

定 松本の有毒ガス 発生から2カ月]

「空き室目立つアパート 現場周辺 患者の回復ほぼ順調」

【市民タイムス】「解けぬ謎<下> 有毒ガス発生2カ月 めど立てているが…… 模倣性を心配口閉ざす」

1994. 8. 30(火)

【朝日新聞】「霧散したサリン風化では済まず」

「サリンの不安 枠組み崩れ露呈、超円高… 芹沢俊介（ウオッチ論潮）」（夕刊）

『「ある日突然犯人に」 今後も起こりうる冤罪事件（単眼複眼）」（夕刊）

1994. 9. 2(金)

【市民タイムス】「自覚症状感じた—27% 市地域包括医療協 住民への調査結果などを報告 有毒ガス事件」 「サリン 噂の数々（聞いた見たり）」

1994. 9. 6(火)

【朝日新聞】「奈良県中西部の異臭騒動（ニュース三面鏡）」（夕刊）

1994. 9. 9(金)

【市民タイムス】「報道と捜査を問う会発足 公開質問状をマスコミへ 有毒ガス事件 15日に集会」

1994. 9. 15(木)

【市民タイムス】「報道と捜査問う 有毒ガス事件で集会 松本の市民グループ」

1994. 9. 27(火)

【毎日新聞】「100通りの全製造法解明 松本のサリン事件3カ月 5薬品購入者 割り出し急ぐ」

【読売新聞】「だれが なぜ……晴れぬ“ナゾの霧” 松本サリン事件から3か月」

「薬剤『B』を追う捜査陣」 「『警察、報道の姿勢に疑問』 河野さん一問一答」

【信濃毎日新聞】「松本の有毒ガス事件4カ月 薬品ルート 来月目標洗い出し 公判へサリン生成実験も 関係薬品を収集 捜査本部」

【市民タイムス】「有毒ガス事件発生から3カ月 解決の糸口つかめず 続く地道な捜査 現場の警戒も依然24時間態勢」

1994. 9. 30(金)

【西日本新聞】「模索続く匿名問題 事件・事故報道」

1994. 10. 13(木)

【朝日新聞】「二つの毒 『人間臭さ』 さえ見えぬ事件（標的 犯罪論94）」（夕刊）

1994. 10. 14(金)

【朝日新聞】「福岡・天神でガス騒ぎ パトカーも出動（青鉛筆）」

1994. 10. 27(木)

【朝 日 新 聞】「薬品ルート 来月目標洗いだし 松本の有毒ガス事件 4 カ月」

「捜査本部 後半へサリン生成実験も 関係薬品を押収」

【市民タイムス】「有毒ガス事件から 4 カ月 薬品ルート解明に全力 『だれが、なぜ』 なぞのまま……」

1994. 11. 5(土)

【市民タイムス】「重要犯罪統括官を親切 当面は有毒ガス事件に専従 県警」

「サリン合成薬品 カギは“白い煙、 信大公開講座で加藤教授」

「現場警備打ち切り 有毒ガス事件」

1994. 11. 13(日)

【日本経済新聞】「サリン中毒被害 松本の医師が報告 総合学術研究集会で」

1994. 11. 26(土)

【朝 日 新 聞】「続く凶悪事件に思う (社説)」

「推論で犯人を決め付ける罪 藤岡伸一郎 (TV ウオッチ) (夕刊)」

【毎 日 新 聞】「松本の有毒ガス 発生から 5 カ月 むぐえぬ警察不信 第一通報者河野さん 『捜索の範囲広げて』」

1994. 11. 27(日)

【信濃毎日新聞】「難航する薬品捜査 松本の有毒ガス事件 5 カ月 さらに長期化も」

【市民タイムス】「有毒ガス事件発生から 5 カ月 サリン生成は現場で—— 薬品洗いだし長期戦に」

1994. 12. 3(土)

【朝 日 新 聞】「サリン事件のもどかしさ 唐沢健治 (コラム・私の見方)」

【市民タイムス】「サリンの医療データ本に 患者の経過や行政・救急の対応」

1994. 12. 4(日)

【市民タイムス】「有毒ガス中毒に関心高く 医学会が集中治療の発表会」

1994. 12. 22(木)

【朝 日 新 聞】「サリン原料1000社回り薬品捜査 松本の事件から半年 第一通報者の会員 『無言電話や脅迫状、早く解明して』 「調べるほど対象増えて 捜査本部」

1994. 12. 24(土)

【福 島 民 報】「根拠なく犯人扱い “事件渦中の会社員” 有毒ガス事件」

【下 野 新 聞】「根拠もなく犯人扱い 『報道で致命傷受ける』 有毒ガス事件 (長野)」

1994. 12. 26(月)

【朝 日 新 聞】「無念……遺族『真相を』 『犬死に気もち晴れぬ』 『長野』と聞くのもつらい」

「薬品類捜査に全力 有力手がかりなく越年へ」

【信濃毎日新聞】「無念……遺族『真相を』 『犬死に 気持ち晴れぬ』 『長野』と聞くのもつらい 松本

の有毒ガス事件から半年」 「薬品類捜査に全力 有力手掛かりなく越年へ」

1994. 12. 27(火)

【市民タイムス】「有毒ガス事件から半年 『必ず解決する』 薬品経路丹念に 捜査本部が今年最後の会見」
「被疑者扱い『異常な状態』 第一通報者との一問一答 今は体調回復と妻の介護優先」

1994. 12. 28(木)

【朝日新聞】「難事件のナゾ解き苦戦で仕事納まらず 捜査員の年の瀬」（夕刊）

1994. 12. 30(金)

【朝日新聞】「ニッポン ただいま午後三時（社説）」

【毎日新聞】「ナゾ呼ぶ『サリン』」

1995. 1. 1(日)

【読売新聞】「サリン残留物を検出 山梨の山ろく『松本事件』直後 関連解明急ぐ 長野・山梨県警
合同で」

1995. 1. 3(火)

【朝日新聞】「山梨・上九一色村でも『サリン』副生成物 昨年 松本の事件直後」

【毎日新聞】「サリン残留物と同一化合物 昨夏 山梨でも検出」

【市民タイムス】「富士山ろくでサリン残留物 松本とは無関係？」

【福島民報】「昨夏 山梨で悪臭騒ぎ サリン似の物質検出」

【下野新聞】「サリンに似た化合物を検出 山梨の悪臭現場」

【上毛新聞】「サリンに似た化合物を検出 山梨の悪臭騒ぎ現場」

【神奈川新聞】「サリンに似た化合物検出 山梨で昨年 悪臭騒ぎ」

【福井新聞】「山梨 サリン系化合物検出 松本の事故直後に悪臭 現場の草や土鑑定」

【西日本新聞】「サリンに似た化合物 昨年の7月山梨の悪臭騒ぎ 土壌などから検出」

1995. 1. 5(木)

【福島民報】「サリン攻撃を受けたと告訴 山梨の教団施設に オウム真理教弁護士が会見」

1995. 1. 7(土)

【日本経済新聞】「オウム真理教がTBSなど提訴 『サリン報道で名誉毀損』」

1995. 1. 10(火)

【日本経済新聞】「オウム真理教が週刊朝日を提訴 『サリン報道で名誉毀損』」

1995. 2. 7(火)

【毎日新聞】「河野さん会見でマスコミ批判 有毒ガス中毒事件」

【日本経済新聞】「『報道機関などの法的手段辞さず』 松本有毒ガス 通報の会社員」

【市民タイムス】「『疑惑まだはれていない』 第一通報の会社員が会見 報道や捜査を非難 マスコミ告訴
の準備も 有毒ガス事件」

1995. 3. 4(土)

- 【日本経済新聞】「人権救済申し立て 第一通報者日弁連に『捜査で犯人扱い』」
- 【福井新聞】「第1通報の会社員 人権救済申し立て 松本有毒ガス事件」
- 【市民タイムス】「捜査の違法性強く訴え 有毒ガス事件・通報者 日弁連へ人権救済申し立て」

1995. 3. 20(月) **地下鉄サリン事件発生**

- 【朝日新聞】「第1通報の会社員が信濃毎日新聞を提訴 松本サリン事件」(夕刊)
『治療法は』『薬は』 信州大学に照会殺到 東京・地下鉄サリン事件」(夕刊)
- 【毎日新聞】「約900人に症状 刺激臭の原因」
- 【読売新聞】「松本サリン事件で『信毎』を提訴 第一通報者の河野さん」
- 【日本経済新聞】「何が……乗客バタバタ 嘔吐 全身けいれん 被害者、瞳孔縮む 松本サリン事件に類似」 「無差別殺傷の恐怖 一連の事件、関連を捜査 警視庁」
- 【信濃毎日新聞】「本社に慰謝料など請求 会社員が提訴 松本の有毒ガス事件で自宅捜査」
「信濃毎日新聞社に対する民事訴訟 『訴状の要旨』」

瀬木 潔・信濃毎日新聞社取締役編集担当の話

訴状を手にしていない現段階では、お答えのしようがないが、報道の自由にかかわる問題の訴えであるなら、看過できない。訴状の内容を検討のうえ、対応する。信濃毎日新聞は、当事件について一貫して捜査の流れを追いながら客観報道に徹し、原告自宅の強制捜査以降は匿名報道を続けるなど、人権報道に最新の注意をはらってきた。一連の報道は、それぞれの時点でそれぞれ信頼に足る裏付けのある記事であったと信じている。真相の解明に向けてさらに積極的に取材、報道に取り組む。

- 【福島民報】「地下鉄東京に 猛毒サリン 6人死亡被害3200人超す」
- 【神奈川新聞】「会社員が人権救済申し立て 松本の有毒ガス事件」
- 【西日本新聞】「毒ガステロ6人死亡 ラッシュの地下鉄3線16駅 サリンか 警視庁殺人で捜査」
「無差別……首都震かん 『サリンの悪夢』再び 同時多発 時限的に混合か」
「異臭充満『電車止めて!』 通勤客バタバタ 口から泡『目見えぬ』」
「助けろ! 路上が救護所」

1995. 3. 21(火)

- 【毎日新聞】「不審な男 つぶさに目撃 捜査当局、サリンと断定 地下鉄毒ガス」
「若い女性『堤置き、恵比寿で下車』」
「4分間に霞ヶ関駅に集中 官庁職員らの通勤帯狙う? 5本の電車から不審物6個」
「深まる『運搬』のナゾ 東京・地下鉄サリン事件 『松本』と類似点も」
「早期検挙が至上命題だ(社説)」 「治療方法、松本からも情報 地下鉄サリン事件」
「猛毒、遺体にも近寄れず『サリン』の恐怖(上)」
- 【市民タイムス】「(東京地下鉄サリン事件に接して) 無差別許せない 松本の事件の被害者」
「信濃毎日に賠償請求 松本有毒ガス事件第一通報者」 「『松本』と酷似 東京の地下鉄サリン事件 被害拡大に驚き」 「治療法都内へ伝達 信大医学部病院 ファックスで」
- 【福島民報】「『松本』との関連注視 地下鉄サリン事件 標的は『霞が関』か 松本の捜査本部も関心」
- 【上毛新聞】「『防ぎようがない』 専門家・識者の見方」 「『松本事件』との関連? “リハーサル” から“本番”に」 「信濃毎日新聞社に賠償請求 第一通報の会社員」

- 【埼玉新聞】「被害者3000人超す 地下鉄サリン殺傷事件 草加のOL死亡」
「長野の恐怖 首都襲う 地下鉄サリン殺傷」 「一体だれが、何のため…… 口から泡
『助けて』」 「松本の捜査陣 強い関心示す」
「信濃毎日新聞に2千万賠償請求 松本の有毒ガス報道で 会社員」
- 【神奈川新聞】「サリン殺傷事件の背景 松本との関連は？」
「『犯人扱い』と地元紙を提訴 松本有毒ガス事件」
- 【福井新聞】「信毎新聞社を訴える 有毒ガス報道で会社員」
「地下鉄に猛毒サリン 東京3200人被害 6人死亡 同時多発組織犯か 15人重体」
「松本事件と関連か 松本はリハーサル？」 「狂った犯行 地下鉄サリン事件（論説）」
- 【西日本新聞】「『松本事件』との関連追うが 見えない犯人像」
「猛毒サリンと断定 死者拡大3200人超す 容器6個を発見 『松本』との関連捜査」

1995. 3. 22(水)

- 【信濃毎日新聞】「強制捜査が行われた山梨県上九一色村のオウム真理教施設（写真）」（夕刊）
「『松本』と同じ残留物 地下鉄サリン 死者10人 被害5500人 地下鉄サリン」（夕刊）
「松本事件と類似性ある 警視庁刑事局長」（夕刊）

1995. 3. 23(木)

- 【朝日新聞】「サリン化合物を発見 サリン原料・生成物と同種 オウム関連施設 『地下鉄』『松本』
関連を本格捜査へ」
- 【毎日新聞】「水面下 陸自で訓練 不測の事態を想定 オウム真理教強制捜査 毒ガス対策、装備も
万全に」 「地下鉄サリン事件 発生以前から予定」 「サリン 威力は核兵器並み」
「『地下鉄』も予測していた 松本サリン事件調査の米研究所」
- 【信濃毎日新聞】「“共通項の” DIMP 県警の捜査本部も注目 地下鉄サリンと松本事件」
- 【市民タイムス】「残留物『松本』と同じ 東京の地下鉄サリン事件 生成の最終段階の副産物」
「警察庁 『一連事件として捜査』」
「オウム真理教 事件との関係は？ 松本支部周辺に不安の声」
- 【上毛新聞】「松本と同じ物質検出 地下鉄サリン殺傷事件」
- 【神奈川新聞】「完全武装に恐怖の影 オウム真理教強制捜査 サリン事件 点から線へ」
- 【福井新聞】「サリン原材料押収 オウム真理教を強制捜査 地下鉄事件の関連強まる」
「松本と同物質検出 死亡10人 被害5510人に 地下鉄サリン」

1995. 3. 24(金)

- 【朝日新聞】「化学兵器での地下鉄テロ予想していた 東京サリン事件で英教授ら報告」
「解明を待つ遺族や被害者 目の黒いうちに犯人を／大量の薬品をなぜ 怒りがまた突
き上げる／いまは悲しみだけ 松本事件・地下鉄事件」
「事件直前 不審な4人組 2人は宇宙服のような着衣 現場で調合の可能性 目撃証
言 松本サリン」
- 【毎日新聞】「ペーパー会社で劇薬購入 松本市に法人登記 役員住所は上九一色村」
「サリン“工場”と断定 上九一色村教団施設 警視庁 猛毒タブンも生成か」
- 【上毛新聞】「『本当なら許せない』 サリン被害者 遺族ら」
「押収物にサリン原材料 麻原教祖ら聴取へ」

【神奈川新聞】「麻原教祖ら取り調べへ オウム捜査 殺人予備罪適用を検討」
「『人間のやることじゃない』サリン事件 依然 多いなぞ」

【西日本新聞】「オウム真理教を強制捜査 山梨や都内25カ所 機動隊員ら2500人動員 警視庁」
「3つの事件つながるか 松本―山梨―東京」
「『松本事件』は予行演習 米の専門家が指摘」

1995. 3. 25(土)

【朝日新聞】「松本サリン事件へのオウム教関与、本格追及へ 山梨に捜査員派遣 長野県警」
【信濃毎日新聞】「『松本と関連ある』県警捜査本部」 「『オウム』施設と松本事件 関連の解明が焦点に」
【市民タイムス】「松本サリン捜査本部 目撃情報など洗い直し」 「オウムとの関連は保留 山梨県へ捜査員派遣」 「周辺住民に強まる不安 オウム真理教松本支部道場 報道陣詰め掛け」

1995. 3. 26(日)

【毎日新聞】「官舎の裁判官も被害 オウムが被告の民事担当 中毒症状、判決延期に 松本のサリン」
【信濃毎日新聞】「地下鉄―松本―山梨 3事件の『サリン』 同一残留物の構成比一致 同じ犯人とは断定できない 松本署捜査本部」
【市民タイムス】「『現場近くに宇宙服の人物?』 松本有毒ガス事件 事件当夜に目撃 松本署に情報」
【上毛新聞】「サリン事件 残留物が一致 松本 地下鉄 上九一色村の悪臭」
【福島民報】「サリン 同一と団体 地下鉄 松本、山梨の3事件 警視庁」
【埼玉新聞】「同一サリンと断定 地下鉄、松本 山梨 成分構成比が一致 オウムの施設の検証急ぐ」
【神奈川新聞】「サリンと同一と断定 地下鉄 松本 山梨3事件 警視庁」 「オウム施設の検証急ぐ」
【福井新聞】「犯罪被害者給付金申請へ 松本事件の河野さん」
【西日本新聞】「残留物の成分一致 警視庁 同一サリンと断定 東京地下鉄 松本 上九一色村悪臭」

1995. 3. 27(月)

【朝日新聞】「サリン事件の核心に肉薄せよ(社説)」 「教団の電波戦略挫折 ロシアで次々放送中止」
「『松本』でも後遺症続く 第一通報者の妻、意識戻らず」(夕刊)
【毎日新聞】「犯罪被害給付金申請へ 『松本サリン』通報の河野さん」
【市民タイムス】「『オウム』への殺人予備罪適用 松本署の対応に関心」 「オウム捜査とサリン事件 長引く裁判にどう影響? 松本の土地問題 早期決着を願う住民」
【神奈川新聞】「同一サリンと断定『大きな突破口に』松本署捜査本部」

1995. 3. 28(火)

【朝日新聞】「サリンの対応 遅すぎないか(声)」

1995. 3. 29(水)

【朝日新聞】「サリン事件で警察など批判 米マスコミ」

1995. 3. 30(木)

【朝日新聞】「松本事件のころ有機リン中毒用の解毒剤を大量購入 オウム教付属医院」

1995. 3. 31(金)

【朝日新聞】「人権救済の調査へ 松本サリン事件で日弁連 河野さんの申し立てで」(夕刊)

1995. 4. 1(土)

【朝日新聞】「松本サリン事件の第一通報者の人権侵害調査を決定 日弁連」

「松本サリン事件 被害者は593人 治療に当たった医師らの追跡調査」

「松本サリン事件 来月中にも人権救済調査 第一通報者の申し立て」

【信濃毎日新聞】「松本サリン事件で日弁連 人権救済の調査へ 河野さんの申し立てで」(夕刊)

1995. 4. 2(日)

【市民タイムス】「サリンの展開は」

1995. 4. 4(火)

【上毛新聞】「『サリン製造は確定的』関与の人物特定へ 上九一色村のオウム教施設」

1995. 4. 5(水)

【市民タイムス】「有毒ガス事件の住民調査 発生4カ月後も3割が自覚症状 大半は目の異常」

1995. 4. 7(金)

【市民タイムス】「松本にオウムのちらし 民家などに投げ込まれる」

1995. 4. 8(土)

【下野新聞】「サリン製造者絞り込む オウム教の全容解明へ 警視庁」

1995. 4. 9(日)

【朝日新聞】「サリン製造者絞り込む 警視庁殺人容疑立件へ詰め」

【市民タイムス】「有毒ガス事件の“怪文書”を公表 松本の弁護士が会見 オウムとの関係記す サリン製造にも言及」

1995. 4. 11(火)

【埼玉新聞】「自衛官に対処聞く 直前 オウム医院薬剤師 松本サリン」

1995. 4. 12(水)

【市民タイムス】「『松本サリン』報告書完成 前例ないデータに注目集まる 市包括医療協」

1995. 4. 13(木)

【朝日新聞】「モスクワの化学研究所と接触 軍にも浸透図る オウム真理教」

1995. 4. 14(金)

【市民タイムス】「きょう家宅捜索 松本署など オウム真理教松本道場も 監禁事件やサリン疑惑で」

1995. 4. 15(土)

【市民タイムス】「オウム松本道場を捜索 殺人予備容疑 捜査員70人態勢で」

1995. 4. 16(日)

【市民タイムス】「闇組織、の関与示唆 オウム真理教サリン疑惑 化学技術省信者が内部告発 『松本には資料ないはず』」

1995. 4. 17(月)

【市民タイムス】「教団科学技術省幹部の証言 上 サリン事件関与 疑われても否定できない 上九一色村は工場 松本の事件は不思議」

1995. 4. 18(火)

【市民タイムス】「教団科学技術省の幹部の証言 中 上九一色の施設内 ハルマゲドン思想が浸透 麻原尊師はヒトラー的存在」

1995. 4. 19(水)

【市民タイムス】「教団科学技術省の幹部の証言 下 オウム真理教 粗雑で不備多い組織 『予言』が動乱起こす可能性も」

1995. 4. 20(木)

【毎日新聞】「日本震わす サリン 地下鉄サリン事件1カ月」 「サリン原料すべて押収 『農薬製造説』は破たん」 「深まる オウム疑惑」

1995. 4. 21(金)

【朝日新聞】「河野さんに本社謝罪 『農薬調合ミス』報道で 松本有毒ガス事件」
「おわび」

昨年六月二十九日付け朝刊1面「会社員宅から薬品押収 農薬調合に失敗か」の記事などで、河野義行さんが農薬を調合して有毒ガスを発生させた、との印象を読者に与え、河野さん並びにご家族、関係者にご迷惑をかけたことをおわびします。

【市民タイムス】「『オウム』たたきの余波 隠れ家では？ うわさ流れ マンション、ビル経営者ら 憤慨 松本」

1995. 4. 22(土)

【上毛新聞】「『報道被害』めぐり初審理 松本有毒ガス事件」

* (注) 河野氏の提訴(1995年3月20日付)による第一回口頭弁論 信濃毎日新聞社側は、全面的に争う姿勢を示した。

1995. 4. 25(火)

【毎日新聞】「資料を再三搬出 松本サリンや拉致事件後 起訴のオウム信者が供述」(夕刊)

【市民タイムス】「『松本サリン』の捜査過程で浮上 薬品会社社長を逮捕」

1995. 4. 28(金)

【朝日新聞】「犯罪被害の給付金申請へ 松本サリン通報者」

【市民タイムス】「松本、から10カ月 物証何もなく」 「サリン事件に登場する化学薬品」

【福島民報】「信者の顔写真300人分押収 サリン事件目撃証言と照合」

『実験で有害物質扱う』 土屋容疑者知人に話す 松本事件などと同時期」

【下野新聞】「人権を無視した報道 陳謝を（投稿）」

1995. 5. 1(月)

【朝日新聞】「銃とサリン（偏西風）」【西部】（夕刊）

1995. 5. 3(水)

【市民タイムス】「松本サリン 実行犯特定へ全力 手配幹部らの所有追究 オウム松本道場再捜索」

1995. 5. 5(金)

【市民タイムス】「2つの事件からスピード成立 サリン法」 「深まる製造疑惑 オウム真理教捜査の容疑は？」

1995. 5. 12(金)

【読売新聞】「河野さんに本社謝罪 松本サリン事件報道の一部に誤り」

読売新聞社は、昨年六月二十七日深夜、長野県松本市で七人の死者を出した「松本サリン事件」をめぐる一連の本紙報道について、取材方法、記事内容の両面から社内調査を行った。発生から十か月過ぎた今も事件は未解決で、長野県警による捜査が続いているが、社内の調査の結果、事件の第一通報者である会社員河野義行さん（四五）（松本市北深志一）に関する記述に、事実と反する、あるいは結果として裏付けのない部分があることが判明した。

それは、九四年六月二十九日から七月十五日にかけての一連の記事で、特に①六月二十九日付朝刊（一部三十日付け朝刊）「通報の会社員宅捜索 除草剤調合ミスか」 ②七月十五日付け夕刊（一部十六日付け朝刊）「薬剤使用ほのめかす 事件直後に会社員」の二件。二つの記事とも、捜査当局への確認など、通常の取材を積み重ねて報道されたが、事実と反する記事などとしては

①の記事では、「会社員が（最終十四版以降は「会社員宅で」）除草剤を造ろうとして発生させたものと判明した」など。しかし、除草剤の調合ミスでサリンが発生することはなく、長野県警捜査本部も、会社員が（あるいは会社員宅で）調合をミスした事実を確認していないことがわかった。

②の記事では、捜査本部に対する関係者の証言として「会社員が病院に運ばれる直前、薬剤を使っていたことをほのめかし」などと記述したが、その裏付けはなく、長野県警も再取材に対し「そういう事実は確認していない」と否定した。

これらの記事は、匿名で報道されたが、前後の報道から河野さんにかかわる事実関係であるとの印象を読者に与えた。

読売新聞社は十一日、この社内調査の結果を河野さんに伝え、河野さんにご家族、関係者にご迷惑をかけたことを謝罪しました。また、河野さんの名誉回復と読者の皆様におわびするため、調査結果を紙面に掲載することにしました。

【市民タイムス】「サリン製造を自供」

1995. 5. 13(土)

【毎日新聞】「駐車場で発生 濃厚 河野さん方に隣接 土から副生成物 ワゴン車 当日目撃ワゴン車関与か 松本サリン」

1995. 5. 14(日)

【日本経済新聞】「『松本サリン』事前メモ 『軍事訓練』現場に 富士宮の山林」

1995. 5. 16(火)

【朝日新聞】「疑惑解明に開くか突破口 麻原オウム真理教代表 けさ逮捕」

1995. 5. 17(水)

【朝日新聞】「各党が談話や見解を発表 オウム真理教の麻原代表逮捕で」

「犯罪被害給付金を申請 松本サリン事件第一通報者」

「松本事件前にサリン製造 土谷容疑者 『幹部に渡した』」(夕刊)

「用地買収でトラブル オウムと松本 裁判、現在も続く」(夕刊)

「『オウム』 昨年浮上 薬品ルート捜査で名前 長野県警」(夕刊)

「人集まる場所に行くな 土谷容疑者 松本サリン2週間前に、友人に忠告 『オウムは過激になった』」(夕刊)

【毎日新聞】「井上容疑者 『松本サリン』も主導か」

【市民タイムス】「オウム麻原代表を逮捕 警視庁 『地下鉄サリン』殺人で 松本事件との関連追及」

「『松本サリン』 第一通報者の河野さん 犯罪被害給付金を申請」

「麻原代表逮捕で今後の捜査 『オウム』と『松本』つながるか 少ない物証 不審なワゴン車洗い出し」

「松本サリン 真相解明に突破口 『やっと一段落』 松本サリン現場周辺の住民」

【上毛新聞】「麻原代表の逮捕 『心の傷消えない』 容疑をかけられた河野さん」

【神奈川新聞】「犯罪被害者の給付金を申請 松本サリンで河野さん」

【福井新聞】「松本事件へ突破口 弁護士失跡と関連も 捜査拡大」

1995. 5. 18(木)

【市民タイムス】「松本事件のサリンも製造 オウム 土谷容疑者が供述 村井氏『松本で試してみる』

警視庁 麻原教祖関与追究へ」 「なぜ実験場所に 松本サリン事件で土谷容疑者供述」

「『早く解明を』 怒りあらわの住民」 「河野さん 警察の初動捜査ミスを指摘」

【下野新聞】「地下鉄用に再度製造 松本サリン 使用後処分 土屋容疑者」

【埼玉新聞】「『松本事件』 関与を供述 サリン作り 故村井氏に渡す」

【神奈川新聞】「『地下鉄用に再製造』 サリンで土谷容疑者『松本』後一度は処分」

【福井新聞】「松本サリンも作った 故村井氏に渡す 土谷容疑者供述」

「『やはりオウムか』 住民『早く真相を』 県警一気解決へ期待 松本サリン事件」

1995. 5. 19(金)

【朝日新聞】「地下鉄サリン 別の実験棟で製造 『村井氏が指示』 土谷容疑者供述」

「未明の脱走 追っ手の足音 (94年7月 サリンと背中あわせ：3)」

【毎日新聞】「『松本サリンも視野』 オウム捜査で警察庁次長」

【神奈川新聞】「地下鉄、松本事件のサリン『研究棟で作った』土谷容疑者」

1995. 5. 20(土)

【朝日新聞】○「揺らぐ『自由』『利用者の秘密保護』に試練（図書館新時代：5）」

【市民タイムス】「裁判官官舎狙う 松本サリン 土谷容疑者 『麻原尊師が指令』」

【埼玉新聞】「松本は『粗悪品』使用 遠藤容疑者も研究棟で製造 サリン」

1995. 5. 21(日)

【朝日新聞】「炎熱コンテナに（94年8月ー10月 サリンと背中あわせ：5）」

【市民タイムス】「松本サリン 道場の土地訴訟問題 判決延期が狙い？」

【福島民報】「オウム教 サリン事件直前 会場変更 セミナー、高崎から松本に」

【埼玉新聞】「セミナー会場を変更 松本サリン直前 高崎から松本支部に」

【神奈川新聞】「セミナー会場を松本に変更 松本サリンの直前」

【福井新聞】「松本サリンは粗悪品 残留物を分析 試作品か 長野県警」

1995. 5. 22(月)

【朝日新聞】「松本と地下鉄サリン事件の直前にセミナー オウム教、信徒に警告か」（夕刊）

【毎日新聞】「サリン20キロ搬出 故村井氏『松本事件』の直前 上九一色から」

【福島民報】「松本サリンの背景か オウム土地訴訟に危機感 裁判官が被害」

「兵器として製造 サリン 遠藤容疑者が供述」

【下野新聞】「官舎の裁判官標的？ 支部の土地訴訟に危機感 松本サリン事件でオウム」

【神奈川新聞】「支部土地訴訟に危機感 松本事件当時 他地域へ波及懸念 オウム」

【福井新聞】「土地訴訟の判決に危機感 松本事件当時の教団」

1995. 5. 23(火)

【朝日新聞】「松本サリンもオウム 信徒2女性、製造に関与 『使った』と教団幹部」

「街に重くサリンの記憶 『松本もオウム』供述 『友も死んだ やりきれない』 『なぜここが選ばれたのか』」

【毎日新聞】「幹部2人いた 『松本サリン』当日現場に」

1995. 5. 24(水)

【朝日新聞】「すべては坂本事件に始まった（社説）」

「オウム松本道場の責任者 小林容疑者を逮捕 有印私文書偽造などの疑い」

1995. 5. 25(木)

【市民タイムス】「松本サリン 教団の動きは？ 小林容疑者供述に注目」

1995. 5. 26(金)

【朝日新聞】「画面に広がるモザイク 人権に配慮、基準も（テレビとオウム報道）」（夕刊）

【市民タイムス】「オウム犯行の全貌」

1995. 5. 27(土)

【産 経 新 聞】

本紙「松本サリン」報道

“河野さんに疑惑、の印象 河野さんと読者におわびします。

地下鉄サリン事件は警視庁など捜査当局の調べでオウム真理教による教団ぐるみの犯行であると断定された。また、昨年六月に発生した長野県松本市の松本サリン事件も地下鉄サリン事件の逮捕者の供述などからオウムの犯行との疑いが濃くなっている。

とくに松本サリン事件については、当初、事件を最初に一一九番通報した会社員、河野義行さん(四五)＝同市北深志一ノ一三ノ二ニに関する産経新聞社の報道の一部に事実と反する部分があり、河野さんに謝罪するとともに、読者の皆様におわびします。

松本サリン事件は昨年六月二十七日深夜に起きた。長野県松本市の住宅街で有毒ガスが発生、七人が死亡、六百人の重軽症者が出た。同事件で長野県警捜査本部は、有毒ガスの発生源が事件の第一通報者である河野さん宅の南側にあり、コイやザリガニが死んでいた池が有力と見て、翌二十八日夜、河野さんの自宅を被疑者不詳の殺人容疑で家宅搜索。びんなどに入ったシアン化カリウム（青酸カリ）など薬品類を押収した。

産経新聞社では六月二十九日付朝刊で、「薬品数点を押収」「自宅で薬剤の調合誤る？」という見出しで、「捜査本部は河野さん宅で歌人が薬剤調合しているうち誤って有毒ガスが発生したとの見方を強めている」などと報道した。また翌三十日付朝刊では「関与ほのめかす」という見出しで、河野さんが家族に「(警察の)調べがあるかもしれない。覚悟しておけ」と漏らしていたと報じた。

捜査本部が「現場に発生したガスはサリン」と発表したのは事件から一週間後の七月三日だった。初めて聞く名前だった。

が、当時、現場生成説が強かったうえ、「殺虫剤などを作ろうとしてミスで発生したのかもしれない」と指摘する声もあり、「調合ミス説」を捨てることができなかった。その後の取材で、河野さん宅から押収された薬品類ではサリンが合成できないことが判明した。

また、サリンの発生源も河野さん宅の池ではなく、隣接した駐車場の可能性が高くなり、事件発生直前、駐車場から走り去るワゴン車が目撃されていたことも新たに分かった。

松本サリン事件は発生からまもなく一年が経とうとしている。これまでの報道の過程で、河野さんが有毒ガスを発生させたかのような印象を読者に与えてしまったことは事実である。河野さんならびにご家族、関係者、そして読者の皆様にご迷惑をかけたことを深くおわびします。 (長野支局長 河合映治)

1995. 5. 28(日)

【上 毛 新 聞】「土谷容疑者 すべてのサリン製造 『自分しか作れない』」

1995. 5. 29(月)

【日本経済新聞】「防護服の不審者目撃 1月市内の男性届け出 松本サリン事件の当夜」

【上 毛 新 聞】「車に“宇宙服”の2人 当夜、現場近くで目撃 松本サリン」

【福 島 民 報】「ワゴンに防護服の2人 『松本サリン』で目撃情報 事件は なぞだらけ」

1995. 5. 30(火)

【朝 日 新 聞】「サリン噴霧車を製作 オウム 松本で使用か」(夕刊)

【下 野 新 聞】「松本サリン 実行犯に遠藤容疑者」

【神 奈 川 新 聞】「実行犯に遠藤容疑者 逮捕のオウム幹部供述 松本サリン」

【福井新聞】「実行犯に遠藤容疑者 幹部が供述 松本サリン」

1995. 6. 1(休)

【朝日新聞】○「サリンにも『司法びびらず』 名古屋高裁判官」【名古屋】

1995. 6. 2(金)

【朝日新聞】「松本サリン オウム信徒 十数人関与 『実行』は五、六人か 役割特定進める 捜査当局」 「駐車場から『白い煙』 目の前に立ち込めた 松本事件 サリンの流れ、4階の学生証言」

【信濃毎日新聞】「松本サリンもオウム 麻原教祖の指示で実行 警視庁断定 幹部ら5人追究」
「河野さん 事件と無関係」 「捜査や報道がすぎすぎしてる 河野義行さんの話」
「河野さんに謝ってほしい 河野さんの訴訟代理人、永田恒治弁護士の話」
「心の傷いえることなく 『息子帰ってこない』 遺族 『真相 これから』」
「『なぜ松本 選んだ』 地域住民 なお残る後遺症」
「捜査方針の転換遅れる 松本サリン事件」
「河野さんの痛手大きく 他の可能性 検討十分か 土地訴訟で圧力狙いか」

おわび

信濃毎日新聞社は、『松本サリン事件』発生の初期段階で、昨年六月二十九日付夕刊一面『会社員関与をほのめかす』、同七月二日付朝刊三十一面（社会面）『押収品にフロン系物質』などの報道をしましたが、一日、警視庁などの捜査当局が事件をオウム真理教団の組織的犯行と断定したことから、河野義行さんは無関係であることが判明しました。これらの記事において、河野さんの実名は出さなかったものの、結果として、河野さんならびにご家族、関係者の皆様に大変なご迷惑をおかけしました。ここに心からおわびします。

1995. 6. 3(土)

【信濃毎日新聞】「松本サリン事件と報道の反省（社説）」

【市民タイムス】「オウム教団は解体を 松本土地訴訟の原告代理人 山内弁護士が声明」

「『松本サリン』もオウム 麻原容疑者が指示 警視庁 県警と合同捜査へ」

「捜査、報道に『憤り 寂しさ』 河野義行さん心境語る 『事実は曲げられない』」

おわび

松本サリン事件は捜査当局の調べで、オウム真理教団による犯行との見方が固まりました。市民タイムスは一連の事件について、より正確な報道と第一通報者の河野義行さんの人権に配慮し、匿名にするなど客観報道を心掛けてきましたが、結果的に河野さんにご迷惑をおかけした部分がありました。おわびします。

市民タイムス

【上毛新聞】「『悲しみ一生消えない』 松本事件の遺族」

「初動捜査で見通し誤る 被害者を『容疑者』扱い」

【福島民報】「松本サリンもオウム 麻原代表ら再逮捕へ 捜査当局断定」

「見込み捜査で誤り 被害者を『容疑者』扱い 松本サリン」

【下野新聞】「松本サリンもオウム 教祖指示 実行犯5、6人 警視庁断定」

「被害者『容疑者』扱い 初動捜査誤り」

【埼玉新聞】「松本サリン オウムと断定 麻原容疑やら再逮捕へ」

「土地訴訟への圧力が狙いか 担当裁判官も被害」

【神奈川新聞】「オウムの犯行と断定 麻原容疑者らの再逮捕へ 警視庁と長野県警合同捜査本部設置 松本サリン」 「解明遅らせた見込み捜査 被害者を『犯人』扱い 松本サリン」

【福井新聞】「松本サリン オウムと断定 麻原容疑ら再逮捕へ 実行犯は5、6人 警視庁など」 「初動ミス解明遅らす 被害者に自白強要 長野県警 松本サリン事件」

1995. 6. 4(日)

【朝日新聞】「『松本サリン』前日にワゴン車 新実容疑者名義で借りる 『同乗者』に遠藤容疑者ら」

【毎日新聞】「遠藤容疑者ワゴン借りる 『松本サリン』前日 市内で 事件後返却 目撃情報裏付け」

【福島民報】「遠藤容疑者 車借りる 犯行に使用した疑いも 松本サリン事件の前日」

【埼玉新聞】「遠藤容疑者 車借り出す 松本サリン事件の前日」

【神奈川新聞】「オウム幹部がワゴン借りる 松本サリン前日 犯行に使用の疑い」

【福井新聞】「松本事件前日に 車借り出す 遠藤容疑者」

1995. 6. 5(月)

【毎日新聞】「サリン『噴霧器造った』 松本事件の直前 高橋容疑者が供述 オウム真理教」

【市民タイムス】「松本サリン 教団幹部数人 実行犯の疑い あすにも松本署に連行」

1995. 6. 6(火)

【朝日新聞】「オウム真理教関連事件の解明を期待 野中国公安委員長が会見」(夕刊)

【毎日新聞】「オウム関与の可能性 国松長官狙撃」 「松本サリン 6人で実行」

「標的は裁判官官舎 松本サリン」 「事件取材に重い教訓 検証『松本サリン』報道の1年」 「裏付け取れぬまま『薬品調合ミス』走る」 「『警察がこれだけ……』 消せなかった疑念」 「『事実が一つ』 それが心の支えだった 河野義行さんに聞く」

「本社、河野さんに謝罪 松本サリン事件報道で」

長野県松本市で昨年六月に発生した「松本サリン事件」で、第一通報者の同市北深志一、会社員、河野義行さん(四五)に関する毎日新聞の一連の報道に事実と反する部分があったことが、本社の内部調査で分かりました。訂正すると同時に、河野さんと家族ら関係者の名誉を傷つけ、ご迷惑をおかけしたことをおわびいたします。

問題の記事は、①昨年六月二十九日付朝刊(東京本社発行の最終版、以下同じ)「調査『間違えた』救急隊に話す」 ②同日付朝刊「『オレはもうダメだ』座り込む会社員」 ③同月三十日付朝刊社説「怪奇な事件の恐ろしい背景」 ④「同日夕刊「会社員が供述『自分で希釈中ガス』——です。

①②④の記事とも、調査で記述の部分の裏付けがないことが判明しました。③はこうした記事を引用したものの。いずれも匿名でしたが、河野さんが事件にかかわっている印象を読者に与えました。捜査当局への確認など不十分な点があったことを誠実に反省、今後こうしたことを繰り返さないために全力を挙げます。

七人が死亡、六百人近くが被害を受けた事件は、オウム真理教幹部らの供述から、教団が関与した疑いが濃厚となっており、捜査当局も近く強制捜査に乗り出すと見られています。毎日新聞は五日までにこの調査結果を河野さんに伝え、謝罪しました。また、この事件に関する本社の報道の検証を7面に掲載しています。

毎日新聞社

【埼玉新聞】「近くに信者居住 犯行の下調べに利用か 松本サリン」

- 【神奈川新聞】「サリン噴霧車を製造 自動制御の改造保冷車 オウム幹部供述」
 【福井新聞】「オウムの狂気 法廷へ 残る松本 坂本事件 全容解明へ正念場 捜査当局」
 「サリン噴霧器使った オウム幹部が供述」

1995. 6. 7(水)

- 【朝日新聞】「麻原容疑者ら起訴 殺人・殺人未遂罪で7人 地下鉄サリン殺人」
 「解散までには時間 破防法適用の声も 麻原代表が起訴されたオウム教」
 「『教団の犯罪』法廷へ オウム麻原容疑者ら起訴 信徒の供述維持カギ」
 「捜査の的 重点3事件に 仮谷さん・松本サリン・坂本弁護士」
 「『松本サリン』 合同で捜査へ 警視庁と長野県警」(夕刊)
- 【市民タイムス】「舞台は松本サリンへ」
 「松本サリン 再逮捕は先送り 麻原容疑者ら 地下鉄事件で起訴」
- 【福島民報】「焦点は松本サリンへ 捜査当局 全容解明に向け正念場」
- 【下野新聞】「テレビ各局放送で謝罪 松本サリン報道」
- 【神奈川新聞】「まず松本サリンに焦点 『地下鉄』との関連裏付け 弁護士一家失踪も」

1995. 6. 8(木)

- 【朝日新聞】「松本サリン 遠藤被告ら追及へ」
 「『松本サリン』の噴霧車 保冷車を改造か オウム真理教信徒が供述」(夕刊)
- 【市民タイムス】「サリン報道に何を学ぶべきか 相次ぐマスコミの『謝罪』『おわび』」
 「リークに頼る取材合戦 第二、第三の河野さん生む可能性」

1995. 6. 9(金)

- 【朝日新聞】「長野県警と警視庁が合同捜査会議 松本サリン事件にオウム教関与で」
 「松本サリンで各局謝罪 通報者の名誉回復図る (テレビとオウム報道)」(夕刊)
- 【毎日新聞】「松本サリン 『尊師の以降』 故村井氏 実行班に伝える」
 「『地下鉄』製法と共通 松本サリン」
 「腰の高さに漂う白い霧 直後 視野暗くなった 松本サリン・高校生証言」
- 【上毛新聞】「麻原被告ら再逮捕へ 松本サリン事件」
- 【福島民報】「麻原被告ら再逮捕へ 松本サリン 来週にも合同捜査本部へ 警視庁長野県警」
- 【神奈川新聞】「来週にも合同捜査本部 『オウムの犯行』追及 警視庁と長野県警」

1995. 6. 10(土)

- 【朝日新聞】「10数人で役割細分 週明けにも同捜査本部 松本サリン」
 「河野さんと和解 松本サリンで信濃毎日」
 「松本サリン事件で遺族会結成へ 一周忌を前に犠牲者の5遺族 やりきれぬ思い語り
 合いたい」(夕刊)
- 【毎日新聞】「光った松本サリン検証 (新聞時評)」
- 【神奈川新聞】「『信濃毎日』と河野さん和解 松本サリン報道」

1995. 6. 11(日)

- 【朝日新聞】「合同捜査本部あす設置 松本サリン 週内にも立件 警視庁と長野県警」

1995. 6. 12(月)

- 【朝日新聞】「松本サリン事件の第一通報者に警察が謝罪 『事件とは無関係』」(夕刊)
 「裁判官舎攻撃説も 麻原予言『実現』も関係か 松本サリン事件」(夕刊)
 「松本サリン事件で合同特別捜査本部を設置 警視庁と長野県警」(夕刊)
- 【毎日新聞】「『治療はオウムの病院で』 河野さんに届いた手紙 松本サリン事件3カ月後」
 「河野さんに謝罪 長野県警」

1995. 6. 13(火)

- 【朝日新聞】「『村井氏の指示』と信徒“合唱” 麻原被告かばう？」
 「裁判で無罪勝ち取った気分 県警『謝罪』で河野さん語る」
- 【日本経済新聞】「『無罪勝ち取った気もち だが すっきりしない』 松本サリン 第一通報者が会見」
 松本サリン事件 第一通報者は無関係
 おわび

「松本サリン事件」に関し九四年六月二十九日付けから七月五日付けまでの本紙の記事の中に、事件の第一通報者宅から有毒ガスが発生した、あるいは第一通報者が有毒ガスを発生させた、と受け取れる部分がありました。これは誤りでした。長野県警は同六月二十八日から、容疑者を特定しない殺人容疑で第一通報者宅を家宅捜索しました。しかし、その後ガスがサリンであったことが判明し、第一通報者はガスの発生とは無関係であることが明らかになっています。第一通報者やそのご家族、関係者に迷惑をおかけしたことをおわびします。

日本経済新聞社

- 【市民タイムス】「河野さんあてに差出人不明の手紙 『治療にオウムの病院を』 松本事件の3カ月後」
 「『潔白証明されうれしい』 河野さん会見 『公式謝罪なく残念』 合同捜査本部設置で」

- 【上毛新聞】「遠藤被告ら実行犯特定 松本サリンで合同本部 麻原被告の関与を追及」
 「『潔白証明されうれしい』 第一通報者の河野さん」

* (注) 河野さんによると、岡本武松本署長らが11日夕に代理人の弁護士宅をを訪問し、同席した河野さんにその場で「遺憾の意」を伝えた。このため「態度に誠意を感じた」として謝罪を受け取った、という。しかし、県警が12日の会見で「遺憾の意は謝罪ではない」とこだわったことに対し、河野さんは「謝罪でないのであれば日弁連への申し立ては取り下げず、人権侵害があったことを引き続き訴える」と述べるとともに、今月20日野中国公安委員長に面会し、警察の姿勢を問うことを明らかにした。

- 【下野新聞】「河野さんに『遺憾の意』 警視庁と長野県警」
- 【埼玉新聞】「『心労をおかけした』 河野さんに遺憾の意 長野県警」
 「実行犯6人割り出す 殺人容疑などで再逮捕へ 松本サリンで合同本部」
- 【神奈川新聞】「殺人容疑などで再逮捕へ 実行犯 6人割り出す 松本サリンで合同本部」
 「『潔白が証明された』 河野さん会見で評価 引き続き『謝罪』求める」
- 【福井新聞】「教団幹部ら再逮捕へ 合同捜査本部を設置 警視庁と長野県警」 「河野さんに遺憾の意 全く無関係と見解 長野県警」 「潔白証明 うれしい 河野さんが会見」

1995. 6. 14(水)

- 【朝日新聞】「河野さんにおわびする (社説)」
- 【福島民報】「貨物車に噴霧器 ワゴンで実行犯運ぶ 松本サリン」

「河野さんの妻に給付金 松本サリン事件被害で 長野県公案委」

【上毛新聞】「河野さんの妻らに給付金 松本サリン被害で」

【福井新聞】「貨物車から噴霧 ワゴンは移動用 松本サリン」

1995. 6. 15(木)

【朝日新聞】「『保冷車』住民が目撃 事件当夜 近くの駐車場」

「7遺族と意識不明の1人に給付金適用へ 松本サリン事件」

【福島民報】「『オウム医院お勧め』 河野さん宅に不審な小包 松本サリンで昨年9月」

【下野新聞】「河野さん宅に不審な小包 オウムでの治療勧誘」

【上毛新聞】「河野さん宅に不審な小包 オウムいいんで治療勧誘」

【埼玉新聞】「噴霧器積んだ貨物車でまく 松本サリン」

1995. 6. 16(金)

【朝日新聞】「側近中の側近も供述 オウム教中川被告 10件近く事件関与か」

【市民タイムス】「『松本サリン』当夜 『不審な保冷車見た』 昨年9月に目撃情報 スーパー駐車場で」

「犯罪被害者等給付金支給法 『松本サリン』に適用」

1995. 6. 17(土)

【朝日新聞】「噴霧装置は静岡で処分 逮捕信徒供述 松本サリン」

1995. 6. 18(日)

【朝日新聞】「サリン治療の手引き作成 チャートで診断敏速 九大医学部」

【毎日新聞】「河野さん 『被害者』に 松本サリンの被害調書を作成」

1995. 6. 19(月)

【朝日新聞】「河野さんの被害届受理 松本サリン 長野県警と警視庁」

「噴霧器の一部押収 松本サリン事件で使用か 上九一色村のオウム施設」(夕刊)

【毎日新聞】「噴霧器部品を発見 上九一色村 幹部の供述通り」

【福島民報】「河野さん正式に『被害者』 松本サリン」

【神奈川新聞】「河野さんが被害届提出 松本サリン」

【福井新聞】「河野さんが被害届提出 松本サリン事件」

1995. 6. 20(火)

【朝日新聞】「オウム被害賠償に難問 弁護士グループ『200億』資産保全に苦慮」

「河野さんに事実上謝罪 国家公安委員長」

【福島民報】「野中国国家公安委員長が謝罪 第一通報者の河野さんに」

「2トンコンテナ車を改造 加熱気化し荷台から噴霧 松本サリン」

【市民タイムス】「『政治家として心からおわび』 松本サリン事情聴取で 野中国国家公安委員長が謝罪 河野さん『もやもや晴れた』」

【下野新聞】「河野さんに謝罪の言葉 野中国国家公安委員長」

【上毛新聞】「『シューシュー』と噴出音 付近の住民が聞く 実行犯の供述裏付け 松本サリンの夜」

「『人間として おわび』 河野さんに野中委員長」

「サリン噴霧器の部品押収 上九で捜査本部」

【埼玉新聞】「住民がガス噴出音聞く 実行グループ供述裏付け 松本サリン」 「河野さんに謝罪 団長の思いと 野中委員長」 「2トンコンテナ車改造 荷台の穴からサリン噴霧」

【神奈川新聞】「荷台の穴から噴出 2トンコンテナ車を改造 松本サリン」 「河野さんに謝罪 野中国家公安委員長『1人の人間として』」

【福井新聞】「コンテナ車改造 噴霧 複雑構造 荷台に穴 松本サリン」 「『断腸の思い』謝罪 野中委員長が河野さんに」

1995. 6. 21(水)

【朝日新聞】「松本サリンの17人特定 立案は麻原被告と村井幹部 近く噴霧を再現」 「松本サリン事件での謝罪 捜査の教訓・反省に 警察庁に野中委員長」(夕刊)

【市民タイムス】「松本サリン包括医療協 被害者に『1年目健診』」

【上毛新聞】「噴霧車製造は7人 新たに4名判明 松本サリン事件」 「噴霧車に酷似の車を目撃 上九一色村で2月」

1995. 6. 23(金)

【市民タイムス】「河野さんの立場に」 「松本サリン事件 それぞれの1年 1 息子の死 あきらめられない……毎日墓前へ」

1995. 6. 24(土)

【朝日新聞】「引退する原文兵衛参院議長に聞く(発言席)」 「『裁判官宿舎を狙え』村井幹部から指示 オウム信徒複数が供述」(夕刊) 「土地訴訟に危機感 『司法の逸脱』再三主張 松本でオウム」(夕刊)

【市民タイムス】「松本サリン事件 それぞれの1年 2 明治生命寮 亡き同僚の無念さ胸に全員転居」

1995. 6. 25(日)

【朝日新聞】「松本サリン事件から1年——遺族の思い オウム真理教事件特集」

【市民タイムス】「松本サリン事件 それぞれの1年 3 レックスハイツ所有者 入居者の命、経済的損害……深い傷残る」

1995. 6. 26(月)

【市民タイムス】「松本サリン事件 それぞれの1年 5 永田恒治弁護士 警察と市民相手に……河野さんを守る」

1995. 6. 27(火) —— 松本サリン事件発生から1年 ——

【朝日新聞】「松本サリンの見込み捜査を率直にわびよ(声)」 「素粒子・27日」 「オウム真理教の解散を文部省に要請 有賀正・松本市長」(夕刊)

【毎日新聞】「『松本サリン』発生から1年 来月上旬にも一斉逮捕 信者十数人」

【信濃毎日新聞】「『妻が元通りにならない限り 何も終わらない』河野さん 二人三脚の闘病生活」

【市民タイムス】「松本サリン事件きょう1年 動機と方法どう特定 来月中にも実行犯を再逮捕」 「記者座談会 予断をもつ恐ろしさ実感 足りなかった事実検証 河野さんへの容疑 疑問多かったサリン製法 捜査と薬品」

「松本サリン事件1年 不気味さ残る無差別殺人 大切な事実の積み上げ 取材方法なぜ松本……難しい立証 オウム説」

「オウム真理教・元化学技術省信者インタビュー 多くの疑問残る松本サリン 村井さんの死ショックだった」

「『事件解決は妻の快復』松本サリンから1年 河野義行さん 澄子さんのリハビリに心注ぐ 家族一緒に山へ——車も改造」

「松本サリン事件 それぞれの1年 5 松本広域消防局 事件後、防毒服を配備」

【福 島 民 報】「ようやく全容解明へ 松本サリン事件1年 幹部が犯行自供」

【下 野 新 聞】「遺族、被害者に暗く重い影 松本サリン事件発生から1年 オウムの犯行判明も」

「『闘いこれから』と河野さん 意識不明の妻心配」

おわび

昨年六月二十七日、長野県松本市で起きた「松本サリン事件」について捜査当局は二十六日までに、事件をオウム真理教の犯行と断定しました。下野新聞社は同事件を警察の発表と共同通信社の取材に基づき報道してきましたが、報道の過程で匿名ながら同事件の被害者で第一通報者の会社員、河野義行さん（四五）が有毒ガスを発生させたかのような印象を与える記事を掲載しました。これは誤りでした。

河野さんには五月末に共同通信社を通しておわびし了解を得ましたが、この機会に、ご本人はじめ関係者に迷惑をお掛けしたことをあらためておわびします。 下野新聞社

【上 毛 新 聞】「『悔しくて、悔しくて』松本サリン事件から1年」

「新聞記事にあぜん 警察が自白強要 嫌がらせ電話も 『本当の闘いはこれから』」

「被害者扱いされた苦渋を語る河野義行さん（写真）」

河野さんに深くおわび

昨年六月、長野県松本市で起きた「松本サリン事件」について捜査当局は本日までに、事件をオウム真理教の犯行と断定しました。上毛新聞社と共同通信社は同事件を警察の発表と取材に基づき報道してきましたが、報道の過程で同事件の被害者で第一通報者の会社員、河野義行さん（四五）が有毒ガスを発生させたかのような印象を与える一部記事を掲載しました。これは誤りでした。

河野さんには共同通信社が五月末におわびし了解を得ましたが、事件発生一年を機会に、ご本人はじめ関係者に迷惑をお掛けしたことをあらためておわびします。 上毛新聞社

【福 島 民 報】「ようやく全容解明へ 松本サリン事件1年 オウムを来月にも強制捜査 幹部が犯行自供」 「本当の闘いはこれから 犯人扱いされた河野さん」

おわび

昨年六月、長野県松本市で起きた「松本サリン事件」について捜査当局は二十六日までに、事件をオウム真理教の犯行と断定しました。共同通信社は同事件を警察の発表と取材に基づき報道してきましたが、報道の過程で同事件の被害者で第一通報者の会社員、河野義行さん（四五）が有毒ガスを発生させたかのような印象を与える一部記事を共同通信社加盟の新聞社、契約社に配信しました。これは誤りでした。河野さんには五月末におわびし了解を得ましたが、この機会にご本人をはじめ関係者にご迷惑をお掛けしたことを、あらためておわびします。

【埼 玉 新 聞】「犯行は幹部16—17人 7月上旬にも強制調査」

「本当の闘いこれから 犯人扱いされた河野さん」

おわび

昨年六月、長野県松本市で起きた「松本サリン事件」について捜査当局は本日までに、事件をオウム真理教の犯行と断定しました。共同通信社は同事件を警察の発表と取材に基づき報道してきましたが、報道の過程で同事件の被害者で第一通報者の会社員、河野義行さん（四五）が有毒ガスを発生させたかのような印象を与える一部記事を共同通信社加盟の新聞社、契約社に配信いたしました。これは誤りでした。河野さんには五月末におわびし了解を得ましたが、この機会に、ご本人はじめ関係者に迷惑をお掛けしたことを、あらためておわびします。

【**神奈川新聞**】「オウム16、17人関与 『尊師のため』と幹部ら 来月初めにも強制捜査 教祖の指示解明急ぐ」 「『本当の闘いこれから』犯人扱いされた河野さん」

おわび

昨年六月、長野県松本市で起きた「松本サリン事件」について捜査当局は本日までに、事件をオウム真理教の犯行と断定しました。共同通信社は同事件を警察の発表と取材に基づき報道してきましたが、報道の過程で同事件の被害者で第一通報者の会社員、河野義行さん（四五）が有毒ガスを発生させたかのような印象を与える一部記事を共同通信社加盟の新聞社、契約社に配信。神奈川新聞社は使用しました。これは誤りでした。河野さんには五月末におわびし了解を得ましたが、この機会に、ご本人はじめ関係者に迷惑をお掛けしたことを、あらためておわびします。

【**福井新聞**】「『闘いはこれから』河野さん」
「麻原被告指示裏付けへ 幹部16、17人関与 松本サリン事件」

【おわび】

昨年六月、長野県松本市で起きた「松本サリン事件」について捜査当局は本日までに、事件をオウム真理教の犯行と断定しました。福井新聞社は共同通信社の配信に基づき、同事件の被害者で第一通報者の会社員、河野義行さん（四五）が有毒ガスを発生させたかのような印象を与える記事を掲載しましたが、これは誤りでした。河野さんをはじめ関係者に迷惑をお掛けしたことを、おわびします。

【**西日本新聞**】「松本サリン事件から1年 オウム幹部 16、17人関与 警視庁捜査」
「『闘いはこれから』河野さん」

おわび

昨年六月、長野県松本市で起きた「松本サリン事件」について捜査当局は二十六日までに、事件をオウム真理教の犯行と断定しました。共同通信社は同事件を警察の発表と取材に基づき報道してきましたが、報道の過程で同事件の被害者で第一通報者の会社員、河野義行さん（四五）が有毒ガスを発生させたかのような印象を与える一部記事を共同通信社加盟の新聞社、契約社に配信いたしました。これは誤りでした。河野さんには五月末におわびし了解を得ましたが、この機会に、ご本人はじめ関係者に迷惑をお掛けしたことを、あらためておわびします。

1996. 6. 28(水)

【**毎日新聞**】「来月 ガス拡散実験へ 『松本サリン合同捜査本部』」

【**市民タイムス**】「早く元の静かな街に—— 『松本サリン』発生から1年 めい福願う花束も 有賀市長 河野澄子さんを見舞う」

「松本サリン事件 それぞれの1年 6 奥原敬 医師 生かされた医療ネットワーク」

1995. 6. 29(木)

【朝日新聞】「もっと気軽に謝罪できぬか（声）」

【市民タイムス】「県警本部長 オウム関連会社の薬品購入把握 『化学的捜査の成果』 県会一般質問」
「もう一つの『サリン事件』 ガス派生後 住民が不思議な体験 事件当日の昼間 勤め先の窓から変な空気一日に激痛」
「松本サリン事件 それぞれの1年 7 信者 オウム体験生かし次の人生歩む」

1995. 6. 30(金)

【朝日新聞】「冷静な河野氏 胸の内を思う（声）」

【市民タイムス】「警視庁 松本サリン現場を視察 捜査一課長ら10人 死者の出た部屋 特に注意し」
「松本サリン事件 それぞれの1年 8 現場住民 秋まで続いたマスコミの取材攻勢」